

令和7年度
「障害者の生涯学習支援活動」に係る
文部科学大臣表彰

事例集



障害者の生涯学習を支える全国の実践を紹介



文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室

令和7年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方が生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向けた取組を進めています。この取組の一環として、平成29年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動について、他の模範と認められるものに対し、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

今回の表彰においては、長年にわたる個人・団体の功績を称える「功労者表彰」と、新しいチャレンジや分野を超えた連携の成果が認められた「奨励活動表彰」を合わせ、51の個人及び団体の皆様を表彰することとなりました。これにより今回9回目までの通算の表彰件数は529件となりました。これらの多様な活動に取り組まれてきた皆様に、心より敬意を表します。また今年度は、本表彰のさらなる充実を図るべく、都道府県や市区町村、関係団体等に加え、全国の社会福祉協議会にも表彰の周知に御協力をいただきました。その成果として、教育や福祉などの分野を越えた様々な取組を御推薦いただくこととなりました。皆様の御尽力に心より感謝申し上げます。

本表彰は、「障害者の生涯学習」のさらなる普及・啓発を図るため、全国各地の障害者の生涯学習活動支援に関する好事例を蓄積し、全国に取組の輪を広げていくことを目指しております。今回表彰された取組をぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに一冊の事例集としてまとめました。この事例集を参考に、各地で障害のある方の学びの場がより一層広がることを期待しております。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

令和7年12月

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

障害者学習支援推進室長 星川 正樹

目次

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
功労者表彰					
青森県（三沢市）	宮内 善浩	車いすテニス体験会の開催および車いすテニスの普及	青森県	スポーツ施設、スポーツ団体、行政（保健・福祉部局）、特別支援学校	1
青森県（むつ市）	むつ・下北地区レクリエーション協会	「市民ニュースポーツ体験会」・「ほほえみのつどい」	青森県	社会福祉協議会、社会福祉関係団体、高等学校、特別支援学校等	2
岩手県（宮古市）	宮古音声訳の会	視覚障がい者の目の代わりとなる音声訳	岩手県	宮古市福祉課・企画課、宮古市社会福祉協議会	3
岩手県（盛岡市）	西部点字パソコンサークル・ステップ	公民館を活動拠点とした「点訳ボランティア」	岩手県	盛岡市西部公民館	4
山形県（山形市）	認定特定非営利活動法人アジェンダやまがた	音楽で心をひらき 耳をひらく ～世界の子どもたちに音楽の喜びを届ける～	山形県	山形大学・山形交響楽団	5
茨城県（小美玉市）	美野里点訳サークル「てんとむし」	読書の楽しさ、文字をたどる喜びを	茨城県	小美玉市社会福祉協議会、茨城県立点字図書館	6
茨城県（つくば市）	筑波技術大学障害者スポーツ教室	筑波技術大学障害者スポーツイベント・障害者スポーツ教室	国立大学法人筑波技術大学	茨城県バラスポーツ指導者協議会、茨城県立医療大学、筑波大学等	7
群馬県（邑楽町）	邑楽町手話サークルすずらん	ろうあ者と健聴者が共に考え、学び合う 「邑楽町手話サークルすずらん」	群馬県	邑楽町中央公民館	8
千葉県（成田市）	ダウン症を持つ子と親の会 ジュピター	ダウン症を持つ子のダンスを活用した自己表現と親子活動	千葉県	－	9
千葉県（八街市）	八街和楽太鼓	和太鼓の演奏「八街和楽太鼓」	千葉県	行政、幼稚園、高齢者施設	10
東京都	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 本人部会・ゆうあい会	本人部会・ゆうあい会	全国特別支援教育推進連盟	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会本部事務局	11
神奈川県（座間市）	座間市手話サークル 星の会	ろう者と交流しながら、ろう者の言語である日本手話の習得	神奈川県	座間市立北地区文化センター、座間市社会福祉協議会	12
富山県（富山市）	富山三つ星山の会	アウトドア活動を通じた、健常者と障害者の交流の推進	富山県	スポーツ施設、社会教育関係団体等	13
石川県（加賀市）	ボランティアグループ アンダンテ	障害のある人ない人の音楽交流会 ほのぼのコンサート	石川県	社会福祉法人、特別支援学校など	14
石川県（小松市）	小松市手をつなぐ育成会 こぶし青年教室	学びたい・楽しみたい・自分らしく「こぶし青年教室」	石川県	小松市手をつなぐ育成会	15
福井県（福井市）	福井ラプターズ	車いすバスケットボールを通じた健常者と障害者の融合	福井県	しあわせ福井スポーツ協会	16
福井県（福井市）	レッド・サンズ	バレーボール（精神）を通じた社会参加の促進	福井県	しあわせ福井スポーツ協会	17
岐阜県（恵那市）	恵那市の障がい児者の生活を豊かにする会	日々の生活に潤いと活力を～仲間とともに～	岐阜県	恵那市役所、恵那市社会福祉協議会	18
静岡県	大塚 康夫	障がい者スポーツを通じたユニバーサル社会づくり	静岡県	行政（保健福祉・教育）、スポーツ団体、学校	19
愛知県（岡崎市）	バリアフリーミュージカル劇団《夢バグ》	誰もがチャレンジできるミュージカル	愛知県	特定非営利活動法人岡崎市障がい者福祉団体連合会	20
愛知県（豊川市）	特定非営利活動法人 パラダイス	響け、わたしたちの音色！ つくろう、みんなのパラダイス！	愛知県	社会福祉法人 豊川市社会福祉協議会	21

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
大阪府（河内長野市）	河内長野音訳サークル「あい」	目になって声を届ける	大阪府	図書館、社会福祉協議会	22
兵庫県（豊岡市）	豊岡市青い鳥学級運営委員会	豊岡市青い鳥学級	兵庫県	豊岡市教育委員会教育総務課	23
鳥取県（鳥取市ほか）	わかとり青年学級	わかとり青年学級	障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク	鳥取県、鳥取県手をつなぐ育成会、鳥取市社会福祉協議会	24
広島県（大竹市）	点字グループ「あけぼの」	文字を点字に！視覚障がい者に情報を！！	広島県	社会福祉協議会、小学校、中学校、高等学校等	25
広島県（府中市）	府中手話サークル トロッコ	いつか咲く手話の花の小さな種を蒔きながら	広島県	社会福祉協議会、小学校、中学校、医療機関等	26
山口県	山口盲ろう者友の会	盲ろう者の自立と社会参加をめざして！	山口県	全国盲ろう者協会 等	27
徳島県	秋田 景旨	バラスポーツの普及促進 ～共生社会の実現に向けて～	徳島県	徳島県バラスポーツ協会等	28
徳島県	徳島県点訳友の会	点訳図書の製作と視覚障がい者の社会参加活動	徳島県	徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センター	29
愛媛県（宇和島市）	カウンセリング・アート鼓舞	和太鼓を用いた即興的な太鼓表現活動	愛媛県	宇和島市教育委員会等	30
愛媛県（西宇和郡伊方町）	伊方町精神保健ボランティアグループ「なぎさ」	障害者にやさしい地域社会の実現にむけて	愛媛県	社会教育関係団体、行政、家族会等	31
福岡県（大刀洗町）	大刀洗町障がい児・者親の会「障がいとともにあゆみ隊“ぼけっと”」	大刀洗流のついで方で楽しんじゃおう！「サマースクール・ウィンタースクール」	福岡県	大刀洗町地域自立支援協議会	32
福岡県（福岡市）	社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会	障がい者生涯学習「フレンドホーム文化教室」 ー 創造する楽しさ・学ぶ喜び・つながる生きがい ー	福岡市	行政（福岡市）、障がい者関係団体等	33
長崎県（諫早市）	点訳友の会「ムツゴロ」	視覚障害者にも「読む」権利と楽しみを！	長崎県	諫早市視覚障害者協会、長崎県視覚障害者情報センター	34
大分県（大分市）	大分心理リハビリテーションの会	動作法による障がいのある人への発達支援	大分県	大分大学、親の会	35
大分県（日田市）	日田市手をつなぐ育成会	障がい者の社会参加をめざした和太鼓教室「SOME WAY」	大分県	日田市、和太鼓グループ『浦和太鼓』	36
宮崎県（国富町）	国富町音声訳グループ「フレンド」	バリエティに富んでいる平均年齢70歳の本好きで元気な仲間たちが集まったグループ	宮崎県	国富町社会福祉協議会	37
鹿児島県（鹿児島市）	鹿児島ふうせんバレーボール協会	ふうせんバレーボール普及活動	鹿児島県	日本ふうせんバレーボール協会	38
東京都／全国	こどもの城合唱団	こどもの城合唱団「みつげよう、すてきなこと」	障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク	自治体や教育委員会、児童館、省庁の外郭団体など	39
全国	岐阜ろう劇団いぶき	手話演劇の普及振興	岐阜県	文化芸術団体、小・中・高等学校等	40
全国	特定非営利活動法人 鳥の劇場	障がいのある人・ない人が共に演劇をつくる「じゅう劇場」	鳥取県	文部科学省、鳥取県文化振興財団、青山学院大学	41
全国	中野 泰志	視覚障害者等に対する読書バリアフリーの推進	全国特別支援教育推進連盟	慶應義塾大学	42
全国	引地 達也	「学び」で君が花開く「みんなの大学校」によるオンライン学習の提供と各地への普及啓発	フェリス女学院大学	各自治体、特別支援学校、福祉サービス等	43

主な活動地域	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
奨励活動表彰					
秋田県（仙北市）	秋田ふくしハートネット	ドリームチャレンジdayへGo!	秋田県	学校、行政、団体等	44
東京都	一般社団法人日本ゴールボール協会	日本ゴールボール協会発足30年！ 地道な普及活動が「2024パリパラリンピック競技大会」で男子が悲願の金メダル獲得！！	日本パラスポーツ協会	特別支援学校、小学校等	45
新潟県（新潟市）	新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科 障がい者陸上教室	“義足で走りたい”という思いを叶える「陸上教室」	新潟医療福祉大学	新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科	46
静岡県（静岡市）	シズオカノーボーダーズ	障害者も、健常者も、個性を目いっぱい発揮する “当たり前”のバリアフリー	静岡市	公益財団法人静岡市文化振興財団	47
兵庫県（姫路市）	パティスリー ル・クール 真砂 大輔	製菓指導で障害者の自信・やりがい向上	兵庫県	社会福祉法人等	48
岡山県（美咲町）	社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会	みしゃモンカレッジ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～	岡山県	社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会	49
徳島県（徳島市）	徳島文理大学音楽学部音楽学科 音楽療法コース	音楽療法の視点を活かした、 障害者の潜在能力が輝く音楽活動	全国芸術系大学コンソーシアム	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	50
全国	一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	聴覚障害者の卓球の普及啓発をめざして！	日本パラスポーツ協会	日本卓球協会、日本パラスポーツ協会等	51

車いすテニス体験会の開催および車いすテニスの普及

功労者

■ 団体名・氏名

宮内 善浩

■ 基本データ

継続年数	22年間
主な連携先	スポーツ施設、スポーツ団体、行政（保健・福祉部局）、特別支援学校
団体の規模等	—
対象	身体障害（下肢）
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

車いすテニス体験会や大会の開催を通じて、運動機会が少ない参加者に対して運動機会ならびにテニス技術の習得機会を提供してきました。2023年度に三沢市の協力を得て、三沢市車いすテニス協会を設立し、障がいをもつ人たちの生涯学習活動の環境づくりにも尽力しています。また、各種国際大会にも帯同するなど、車いすテニス界の発展に寄与しています。

■ 活動内容

車いすテニスのボランティアなどに参加したことをきっかけに、障がいをもつ子どもたちに出会う機会を多くもつことができました。それをきっかけに、「スポーツを楽しむという体験の提供」に価値を感じ、「障がいの有無にかかわらずみんなで一緒に楽しむこと」をモットーに、三沢市はもとより、国内外で車いすテニスを通じて、障がいのある方の積極的な社会参加や社会貢献への一助を図る活動を続けています。活動開始当初、三沢市内の対象者で始めた活動でしたが、口コミで活動の情報が広まり、現在は岩手県からの参加者も出てくるなど、ネットワークが全国に拡大しています。

また、車いすテニスの楽しさと普及を目的とした体験会の開催を通じて、運動機会が少ない参加者に対して運動機会ならびにテニス技術の習得機会を提供しています。参加者は障がい者（車いすユーザー）とその介助者のほか、健常者の体験参加者があり、健常体験者が多いこともあります。



写真2 車いすテニス体験会の様子



写真1 三沢国際車いすテニス大会

■ 活動の経緯・体制

2003年より個人活動として三沢市内の障がい者に対し車いすテニスの指導を始め、2005年からは約10年間、車いすテニス大会を開催し国際大会に発展しました。大会運営を通じて普及活動にも尽力し、全国の選手、関係者とのネットワークも構築してきました。2023年には三沢市の障がい福祉課とも連携し、三沢市車いすテニス協会を設立、スポーツ施設の利用促進や競技用車いすの無償貸与等を通じた活動支援体制を構築しています。

■ 活動の工夫・成果

SNSを使ったオープングループを作成し、希望者が随時参加可能な状態で、口コミや紹介による参加者の勧誘を容易にする環境作りに配慮しています。

宮内善浩氏の個人活動としてSNS（X @miya03）で発信をしています。

「市民ニュースポーツ体験会」・「ほほえみのつどい」

功労者

■ 団体名・氏名

むつ・下北地区レクリエーション協会

■ 基本データ

継続年数	45年間
主な連携先	社会福祉協議会、社会福祉関係団体、高等学校、特別支援学校等
団体の規模等	20名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

2007年から障がい者も健常者も共に楽しむという観点からNPO法人との共催でニュースポーツ体験会を開催。市内の全ての高校からボランティアを募り、幼児から高齢者、障がい者も健常者も共に楽しめる活動を長年にわたり開催し通算46回を数える。また、社会福祉協議会が開催する障がい者と健常者との交流事業にも協力し、年2回参加、それぞれ43回を数える。

■ 活動内容

むつ・下北地区において、NPO法人むつ下北子育て支援ネットワーク「ひろば」との共催で独自事業「市民ニュースポーツ体験会」を年2回開催しています。

また、むつ市社会福祉協議会に協力して「ほほえみのつどい」や「ふれあいクリスマス会」のレクリエーションを担当しています。

どれもが、障がい児（者）と健常児（者）がふれあい交流し、時に同じ種目で競い合うなど共に楽しめるものとなっています。特に、フライングディスクに興味をもった参加者が、全国大会へ出場するようになり、入賞や毎回の種目参加記録が競技を続ける励みとなっています。

また、高校生ボランティアの育成・活躍の場ともなっており、毎回高校生が30名以上参加し、交流しています。

協会が実施する、全ての体験会や教室等は、基本的に障がいの有無に関わらず参加できるインクルーシブな考え方を旨として活動しています。



写真1 「市民ニュースポーツ体験会」の様子

■ 活動の経緯・体制

2004年に「障がい者ニュースポーツ体験会」という名称で、障がい者にもニュースポーツの体験を提供する活動をNPO法人と共催で開催しました。2007年からノーマライゼーションの考えのもと、健常者も共に参加する「市民ニュースポーツ体験会」と名称を変更し、今日に至ります。特別支援学校の児童生徒や学校卒業後の青年が継続して参加しており、幼児から高齢者、高校生ボランティアも参加し盛大に開催されています。

■ 活動の工夫・成果

それぞれの種目に正式なルールはありますが、各々のハンディキャップに関係なく参加できる種目があるため、幅広く楽しむことができます。また、ハンディキャップに応じたクラス分けや、その場のメンバーの話し合いでやり方を工夫することで、ハンディキャップを気にせず楽しむことができるなど、参加者同士の交流をはかりながら、誰もが楽しめるよう工夫しています。



写真2 「ほほえみのつどい」の様子

視覚障がい者の目の代わりとなる音声記

功労者

■ 団体名・氏名

宮古音声記の会

■ 基本データ

継続年数	32 年間
主な連携先	宮古市福祉課・企画課、宮古市社会福祉協議会
団体の規模等	12 名

対象

視覚障害

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障がい者の情報収集及び社会参加の一助となることを目的に、平成5年2月に5名の有志で発足しました。現在12名の会員で宮古市や宮古市社会福祉協議会のバックアップのもと市の情報誌などを音声デージー図書CDにして17名の利用者さんに郵送で提供しています。利用者との交流を深めながら、30年以上にわたり継続した活動を展開しています。

■ 活動内容

録音の種類は、広報(毎月2回)・市議会だより(年4回)・社協だより(年3回)・タウン情報誌(毎月1回)・1件の新聞投稿記事(月～金を毎日)です。他に要望があればプライベート録音もしています。それぞれ担当を決めて締切までに録音・校正・修正を行い、それらを編集してデージー図書CDに仕上げています。広報は校正刷りができた時点で受け取り、即時録音に入ります。なるべく通常の広報配布日と同時に利用者に届くよう努めています。毎月第2土曜日には勉強会を開催しているほか、10月には講師を招いてのスキルアップ講習会も行っています。また、社会福祉協議会や身障者センターのご協力をいただきながら、毎年6月に利用者さんとの交流会を開催しております。感想やご意見ご希望をお聞きし、真に必要な音声記について検討していくために大切な機会となっています。利用者さんの「ありがたいです」のお言葉を励みに日々頑張っております。



写真1 録音ブースでパソコンを使い広報を録音中

■ 活動の経緯・体制

30数年前に、ある一人の市職員が知り合いの視覚障がい者に対面で朗読を始めたのがきっかけとなり音声記の会が発足しました。

現在は12名で活動しています。会長・副会長・会計・書記・事務局・事務局補佐が各1名、監査が2名で合計8名の役員で運営しています。録音媒体もアナログからデジタルへと移行し、年配の会員にとっては厳しい面もありましたが克服しています。

■ 活動の工夫・成果

毎月例会と称して様々な勉強会を行っています。ほとんどの情報誌は視覚に訴えて作成されているので、それを音声だけで伝えるのはかなりの工夫が必要です。写真・図・表・グラフ・地図などはとても大変ですが、皆で話し合っってより良い説明を考え、共有するようにしています。その為にも年に一度講師をお招きしての講習会がとても大切になります。チラシやサンプルCDを用いての周知により今後も活動をアピールしていきます。



写真2

音声記の会メンバー

公民館を活動拠点とした「点訳ボランティア」

功労者

■ 団体名・氏名

西部点字パソコンサークル・ステップ

■ 基本データ

継続年数	30年間
主な連携先	盛岡市西部公民館
団体の規模等	約50名
対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

盛岡市西部公民館を拠点として週3日間(火・水・木)の点訳ボランティア活動と点字の入門講座など啓発活動をしています。一般市民、自治体、福祉関連団体等からの点訳依頼を受け、図書や広報・情報紙などの点訳を行うとともに、市民向けに点字体験講座や点訳ボランティア養成講座の実施をおした啓発及び人材育成にも努めています。

■ 活動内容

点訳活動は、一般書や絵本などを読みながら、パソコンを使って6点入力作業を行います。

入力作業は自宅パソコンで行い、完成した点字データを公民館に持ち寄り、1次校正、2次校正を繰り返し、最終チェックを受けた後に点字プリンターにより点字本を打ち出し完成させます。

点訳する図書などは、一般市民、自治体、福祉関連団体等からの依頼のほか、一部会員による視覚支援学校図書室支援のボランティア活動や視覚障がい者の生活支援対応などを通じて得た情報から検討し選定しています。視覚障がい者本人からの要望も含め、様々な手段でニーズを把握し点字文書を提供することにつながっています。完成した点字本は視覚障がい者への郵送貸出や寄贈も行っています。啓発活動としては、点訳ボランティア養成講座の開催、公民館祭の展示資料による活動紹介、小中学校の点訳入門講座の講師対応などに取り組んでいます。



写真1 作業分担や点訳要領申し合せ

■ 活動の経緯・体制

1995年（平成7年）に西部公民館主催の「点字パソコン学習会」の受講後に点訳ボランティア「ステップ」として活動を始めました。現在の会員数は49名で、会長、副会長、会計局長、事務局長の役員と、一次校正者、二次校正者、最終校正者、作業グループ班長の役割分担で活動しています。毎年西部公民館と協力し、点訳ボランティア養成講座の開催、公民館祭の活動紹介などにより会員募集につながっています。

■ 活動の工夫・成果

公民館で「点訳ボランティア養成講座」を実施し、これまで多くの受講生がサークルに入会しています。設立時からのこれまでに作成した点字本は「1,773タイトル、4,031巻」、一般貸出総数は「372タイトル、1,256巻」、寄贈総数は「245タイトル、918巻」となりました。点訳依頼の際の点字用紙の持込や作業支援金は経費抑制となっているほか、福祉助成品申請による機器や消耗品の寄贈は大変ありがたいご支援となっています。



写真2 自宅での入力作業後の読み合わせ確認

音楽で心をひらき 耳をひらく ～世界の子どもたちに音楽の喜びを届ける～

功労者

■ 団体名・氏名

認定特定非営利活動法人アジェンダやまがた

■ URL

<http://www.agenda-y.com>

■ 基本データ

継続年数	14 年間
主な連携先	山形大学・山形交響楽団
団体の規模等	110 名（利用者）
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

コンセプトは「音楽で心をひらき 耳をひらく」。障がい児・障がい者一人ひとりの個性や課題に合わせた音楽レッスンを実施しています。障がい改善を目指した「療育」×「教育」の独自メソッドによる音楽プログラムは個別とグループがあり、行政認可を受けた3事業にて幼児から青年期までノンストップでの音楽支援を提供しています。

■ 活動内容

「福祉事業による山形市市街地活性化」をテーマに、音楽による障がい児・者支援を展開しています。地域で真に必要とされる福祉サービスを日々追求し、事業を発展させてきました。

音楽レッスンでは、一人ひとりの障がい特性に応じた音楽プログラムを提供し、障がい状況の改善を目指しています。その成果は地元大学との共同研究として日本音楽療法学会で発表し、研究結果を基にした独自メソッドによる音楽指導プログラムを開発しています。この効果の普及を目指し、楽器・楽譜の一般販売も行っています。

日々のレッスンに加え、成果発表と地域交流の場として事業所内コンサートを年2回、山形市テルサホールでのインクルージョンコンサート「ラルページ」を年1回開催。幼児から成人まで思いの音楽表現を披露し、障がいの有無に関わらず同じ場所で音楽を共有することで、共生社会の実現に寄与しています。



写真2 社会人クラスのレッスン風景



写真1 未就学児のレッスン風景

■ 活動の経緯・体制

平成19年に山形市中心市街地活性化を目的に任意団体を設立。「福祉事業による市街地活性化」へとシフトチェンジし、平成23年に音楽療法による放課後等デイサービス「音楽なかまブリモ」、児童発達支援「音楽なかまアンジェリ」、地域生活支援事業「音楽サロン リナッシュ」を開業。5名の子どもたちと4名の職員でスタートした事業は、現在約110名の利用者を30名の職員で支える場所へと成長しました。

■ 活動の工夫・成果

独自の「こだまメソッド」による音楽支援プログラムは、一人ひとりに合わせたオーダーメイド。育ちの「今」に応じ楽しく参加できるよう、職員が工夫を凝らしています。幼児から成人までのグループレッスンでは音楽アンサンブルを提供。「人と分かち合う喜び」の経験で自分を知り、辛い時も楽しい時もいつでも音楽が自分の傍にある事で、自分らしく過ごせる安心の場を提供し続けます。

読書の楽しさ、文字をたどる喜びを

功労者

■ 団体名・氏名

美野里点訳サークル「てんとうむし」

■ 基本データ

継続年数	26 年間
主な連携先	小美玉市社会福祉協議会、茨城県立点字図書館
団体の規模等	7 名

対象

視覚障害

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

視覚に障害がある方を対象に、書籍や資料などを点字にする活動をしています。また、小美玉市社会福祉協議会「ふくしの出前講座」に登録、小・中・高校などで点字体験学習・アイマスク体験学習を通しての啓発活動にも取り組んでいます。

■ 活動内容

茨城県立点字図書館から依頼された書籍等の点訳を主とし、その他、障害者個人から依頼された図書、カタログ、歌集などの点訳も行っています。正確でわかりやすい点字表記ができるよう、点字表記の規則、原本を正しく理解するための漢字の読み取りや調査技術などを学び合っています。

学んだことを基に全会員が日々点訳作業に取り組み「これまでの人生で最も辛かった時、点訳していただいた三浦綾子さんの本を読んで、もう少し生きてみようと思った」といったお声をいただくこともあります。また、「毎日指でたどっていた点字文が(摩耗して)読めなくなってしまった。これと全く同じに書いてほしい」「若いころ読んで感動した池波正太郎さんの本がまた読みたい」といった要望にもできるだけ迅速に対応し、読書の楽しさ、文字をたどる喜びを味わっていただけるよう研鑽を積んでいます。



写真 1

小学校でのアイマスク体験学習

■ 活動の経緯・体制

平成11年、社会福祉協議会が主催する「福祉公開講座」受講生が中心になり発足、市内在住ですでに茨城県立点字図書館の点訳奉仕員であった3人と共に活動を始めました。月2回の定例勉強会を実施しながら、点訳活動、啓発活動と並行して点訳ボランティア養成講座を開催、後進の育成に努めています。

■ 活動の工夫・成果

小・中・高校における点字体験学習では、会員手作りのしおりに点字を書いたり、自身の学校名・氏名入りの点字名刺を作成したりします。体験だけにとどまらず、作品が残ることで、家族や友人に見せたり説明したりと点字が広まるようになりました。アイマスク体験学習では、「どのようなガイドを受ければ安心なのかな？」をテーマに据えることで、歩き方・椅子への誘導・階段の上り下りなど、より集中した体験になっています。



写真 2

定例勉強会

筑波技術大学障害者スポーツイベント・障害者スポーツ教室

功労者

■ 団体名・氏名

筑波技術大学障害者スポーツ教室

■ URL

<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/index.html>

■ 基本データ

継続年数	18 年間
主な連携先	茨城県パラスポーツ指導者協議会、茨城県立医療大学、筑波大学等
団体の規模等	5名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

地域の障害者スポーツ振興のため、筑波技術大学の体育教員が運営・指導にあたり、2007年から障害者スポーツイベントを、2013年から障害者スポーツ教室を開催しています。それぞれのイベント・教室では、年齢や障害の種別・程度等を問わず、全ての障害者が参加できるよう工夫を行っており、イベント・教室の障害者の参加者総数は、延べ約1,800名となっております。

■ 活動内容

障害者がスポーツに親しむ機会を増やすこと、また、障害者同士や関係者間の交流を深めることを目的として、筑波技術大学の体育教員が運営・指導にあたり、年齢や障害の種別・程度等を問わず誰もが参加できる障害者スポーツイベント（毎年1回）や障害者スポーツ教室（毎月1回）を開催しています。スポーツイベントではボッチャ、卓球バレー、ビームライフル、レクリエーション（ハンドアーチェリー、ラダーゲッター等）、クライミング等の様々な種目を、スポーツ教室では主にボッチャ、卓球バレー、レクリエーション（同上）等の種目を実施しています。開催を通じて、継続的な参加による仲間づくりやスポーツ技術向上など、障害者の社会参加の促進に貢献しています。さらに、本活動は、肢体不自由特別支援学校の課外活動の場として、また、茨城県パラスポーツ指導者協議会と連携して指導者の研鑽の場としての機能も果たしております。



写真1 障害者スポーツイベントの様子

■ 活動の経緯・体制

障害者のスポーツ振興を目指す事業を実施し、障害者スポーツの拠点となる役割を果たすことが地域貢献として意義深いと考え、2007年から障害者スポーツイベントを、2013年から障害者スポーツ教室を開催しています。大学が保有しているボッチャ、卓球バレー等の様々な障害者スポーツ用具を活用し、茨城県パラスポーツ指導者協議会とも連携し、筑波技術大学体育教員とパラスポーツ指導者が参加者の指導にあたっています。

■ 活動の工夫・成果

両活動とも参加者の年齢や障害の種別・程度・志向をもとに全ての障害者が参加できるよう工夫をしています。参加者の交友・交流の拡大、スポーツ技術向上に貢献でき、中にはチームを結成して大会出場しメダルを獲得する事例もありました。またパラスポーツ指導者が指導経験を積む機会を提供し、指導力向上にも寄与しました。さらにこの教室をモデルとして、他の地域での障害者スポーツ教室の設立といった波及効果もみられています。



写真2 ハンドアーチェリー（重度な方も可能）

ろうあ者と健聴者が共に考え、学び合う 「邑楽町手話サークルすずらん」


 功労者

■ 団体名・氏名

邑楽町手話サークルすずらん

■ 基本データ

継続年数	35 年間
主な連携先	邑楽町中央公民館
団体の規模等	30名
対象	聴覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ろうあ者問題を地域において解決する立場から、ろうあ者と交流を深め、手話技術の向上や町主催の事業における手話通訳や手話教室での講師を行うことに加えて、ろうあ者の抱える課題・問題の解決に向けた様々な事業を行っています。

定例活動日は、毎週火曜日（第5週はお休み） 19:30～21:00

■ 活動内容

邑楽町手話サークルすずらんの名称で活動を開始して以来35年間、手話技術の向上やろうあ者と健聴者との交流を深めてきました。

ろうあ者の手話技術の向上はもちろん、生活課題など身近な問題を健聴者と共に考え解決していくための活動を行うほか、お花見会やクリスマス会などの季節行事、スポーツ活動、防災学習などを通じて学校卒業後の生涯学習支援に取り組んでいます。

聴覚障害者の福祉の向上や手話の普及を目的に開催している「手話奉仕員養成講習会」や「手話体験教室」では、ろうあ者と健聴者が協力して運営から指導までを行っており、手話の普及啓発活動に取り組んでいます。

また、町や公民館主催のイベントに協働して企画し、来場者に対して手話体験や珈琲販売を行うなど、活動を通じて積極的に地域の方との交流を図っています。



写真1 子どもが主役の「邑っ子フェス」で手話体験

■ 活動の経緯・体制

手話教室の卒業生が手話サークルをスタートさせ、平成2年10月に「邑楽町手話サークルすずらん」に名称変更し、現在に至ります。その間、手話技術の向上と、ろうあ者との交流を図ってきました。

活動については、会長を中心に、役員が一体となって会を運営しています。

■ 活動の工夫・成果

町と一緒にイベント等を行い、参加者に対して手話の絵柄のバッチを作成するなど、手話の普及啓発活動に努めています。また、町の手話言語条例の制定に向けた意見交換会に参加し、邑楽町手話言語条例施行に尽力しました。条例制定後の「手話言語の国際デー」ブルーライトアップのイベントでは、「おうら少年少女合唱隊 S I N G !」と一緒に手話コーラスを披露し、地元テレビ局で放送されるなど地域住民に広く啓発を行いました。



写真2 ブルーライトイベントで手話を交えて合唱

ダウン症を持つ子のダンスを活用した自己表現と親子活動

功労者

■ 団体名・氏名

ダウン症を持つ子と親の会 ジュピター

■ URL

https://www.instagram.com/jupiter_smile/

■ 基本データ

継続年数	16 年間
主な連携先	—
団体の規模等	80 名

対象

ダウン症を持つ子とその家族

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ダンスや季節行事、保護者交流を柱とし、年齢や障がいの有無を問わず、誰もが学び・表現・つながれる「生涯にわたる活動の場」としています。特に卒業後や成人後も継続できることを重視し、表現を通じた社会参加や地域との関わりを育んでいます。子どもたちだけでなく、保護者や地域の人々もともに成長し合える場を目指し、活動を続けています。

■ 活動内容

ジュピターでは、HIP-HOPや手話ダンスなどの表現活動を月2回程度実施し、子どもたちの発達や特性に応じた振付けやサポートを行なっています。月1回の茶話会では、保護者が育児や制度、将来への悩みを共有し合い、学び合っています。親子で楽しむ季節行事や体験活動（芋掘りやクリスマス会など）も重ね、家族ぐるみでの交流の場となっています。また、地域イベントへの出演を通じ、ダウン症のある子どもたちの姿を地域社会に広げ、共生社会への理解促進にも取り組んでいます。卒業後や成人後も継続して参加できる「生涯の場」として活動を開いています。近年は手話ダンス甲子園にも挑戦し、子どもたちの可能性が活動の中で広く受け止められるようになってきました。多様性の側面からも、外国にルーツとする児童や多くの成人を含めた活動は、地域福祉関係者にも注目されており、他地域への波及も期待されています。



写真1 全国手話ダンス甲子園で特別賞（ダイバシティ賞）を受賞

■ 活動の経緯・体制

2007年に千葉県北総地域で発足しました。ダウン症のある子どもとその家族が「楽しく笑顔で子育てをしよう！」を合言葉に、安心して集える居場所を求めて立ち上げた会です。当初は数組の親子による小さな集まりでしたが、交流や情報共有を重ねる中で仲間が広がり、現在では保護者が企画や運営を担い、必要に応じて地域の支援者や外部講師とも連携しながら活動を推進しています。

■ 活動の工夫・成果

子どもたちは自己表現の機会を得て、自己肯定感や社会性を高めています。特に、ダンスや発表の場での成功体験は大きな自信となり、成長を後押ししています。保護者は、悩みや経験を共有する中で安心感を得て、“支えられる側”から“支える側”へ、そして互いに支え合う関係へと広がっています。地域イベントへの参加により、子どもたちが自然に地域に受け入れられ「共に生きる社会」への理解が深まっています。



写真2 市の共生ウィークイベントでのダンス披露

和太鼓の演奏「八街和楽太鼓」

功労者

■ 団体名・氏名

八街和楽太鼓

■ 基本データ

継続年数	40 年間
主な連携先	行政、幼稚園、高齢者施設
団体の規模等	33名
対象	視覚障害、知的障害、ダウン症
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「障がいがある方の学校卒業後の活動機会の提供」を目標の1つとし、その補助を行うことに力を入れ、「まずは楽しんでもらうことが大事！！」、会の名称のとおり「和んで楽しく！」をモットーに、和太鼓の演奏の練習、イベントへの参加を行っています。外国籍の方が入会されたり、イベントへの参加回数が年々増加する等参加者や活動の幅を広げています。

■ 活動内容

月2回市内の公民館で3時間の練習を積んでおり、毎回25～30人の参加があります。やちまたふくしフェスタ、ふれあい夏祭り、盆踊り、産業祭りのほか、市内の幼稚園、近隣市のお祭り等、年間30回程度、夏は毎週のようにイベントに参加し和太鼓の演奏を披露しています。

また、民間団体とのつながりもあり、市内や近隣市の高齢者施設でも演奏を行なう等、地域をまたいだ活動をしています。

活動するうえで大切にしていることは、共存共栄です。ハイレベルな技を求めるのではなく、会の名称のとおり、「和んで楽しく！」をモットーに、それぞれが協力して活動しています。和太鼓の演奏を通じて、会のメンバーと社会とのつながりを増やして、社会貢献をしていきたいと考えています。会のメンバーである障がいがある方、保護者が楽しまれているほか、イベントにいられているお客さまも楽しんでいます。



写真1

さくらPR祭り

■ 活動の経緯・体制

1983年に活動を開始し、40年以上活動しています。当初は大人15人くらいからスタートし太鼓の数も少なかったのですが、17年ほど前から障がいがある方の受入れを始め、寄付していただいた太鼓も含め23基に増えました。メンバーには外国籍の方もおり、国籍に縛られず活動しています。依頼件数が増えてきており、お断りすることもあるため、今後はチーム分けして複数の依頼に対応できる体制を整えていきたいと考えています。

■ 活動の工夫・成果

社会参加することに意義があると考え誰もが参加しやすい環境づくりに努めています。

視覚障がいがある方等障がいがある方で上手な方はいます。太鼓が多少乱れたりするときは、周囲が補助し共存共栄ができるようにしています。

イベントの参加者等から好評の声をいただくことも多々あり、参加者等にも喜びが広がっていると感じています。



写真2

和太鼓フェスティバル in 東金

本人部会・ゆうあい会

功労者

■ 団体名・氏名

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 本人部会・ゆうあい会

■ URL

<http://www.ikuseikai-tky.or.jp/yuuai/>

■ 基本データ

継続年数	30 年間
主な連携先	社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会本部事務局
団体の規模等	会員54名、賛助会員153名
対象	主に知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ゆうあい会は、知的に障害のある人たちが集まり、会員同士で日頃の生活で困った事を相談したり、交流会や新年会等の行事を通じて交流を深め、当事者の声として国や東京都などの行政に対し、意見や要望を出したりとしながら、活動を行っています。

■ 活動内容

平成6年6月に発足後、毎年、会の事業計画や報告を確認する総会や会員同士の親睦を深めるためのバスハイクや交流会、新年会を開催してきました。平成9年3月には会の活動紹介や時事、障害福祉のニュース等を記事にした機関誌『どりーむ通信』を創刊し、同年9月には活動の幅を広げるべく、サークル活動を開始しました。平成15年11月、障害のある当事者と支援者とで結成した合唱団が障害者芸術文化祭東京大会ハートフルアートTOKYOに出演し、平成18年7月には映画『筆子その愛 天使のピアノ』出演者との懇談をする等、芸術活動にも関わりを持ちました。対外的には東京都障害者施策推進協議会等に委員として出席し、国際的には国際育成会連盟の世界大会やアジア知的障害者会議に参加し、各国の障害福祉施策の学びや関係者との交流を深めてきました。令和2年以降、コロナ禍で活動の自粛やそれに伴う会員の退会が続きましたが、令和5年より活動を再開し、活動の普及を図っています。



写真1

栄養学習会

■ 活動の経緯・体制

平成6年、当時の法人理事長より、「これからは本人の時代だ。本人の会を作って余暇や学習、恋愛もし、結婚するカップルが出たら最高だ」との意見があり、知的に障害のある本人数が運営委員となって会が発足しました。ピアカウンセリングの手法を学ぶ事で、運営委員同士が互いを尊重し、会のルールが確立していきました。現在、ほぼ毎月、運営委員会を法人事務局会議室で開催し、会員は交流会や料理教室等に参加しています。

■ 活動の工夫・成果

運営委員会に合わせて支援者は打ち合わせを定期開催し、支援内容の振り返りや課題整理、支援者のあり方を協議する中で、運営委員会に携わっています。運営委員会は会員の誰もが見学できる仕組みを整えており、運営委員の選出は、公平性並びに透明性を保つべく、総会の場で行われる選挙で任命される等、会員の誰もが主体的に取り組めるような組織運営となっています。



写真2

平成6年6月発会式

ろう者と交流しながら、ろう者の言語である日本手話の習得

功労者

■ 団体名・氏名

座間市手話サークル 星の会

■ URL

<https://zamat.genki365.net/G0000328/>

■ 基本データ

継続年数	51 年間
主な連携先	座間市立北地区文化センター、座間市社会福祉協議会
団体の規模等	40 名

対象

聴覚障害

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

1974年に設立された手話サークル「星の会」は、手話学習を通じて技術を習得することを目的に活動しています。ろう者との交流を通じて手話や文化を学び、手話通訳者の育成にも貢献しています。また、市内の学校での手話体験学習や、社会福祉協議会・各種施設での親子手話講座などにも協力しています。年間計画に沿った行事も実施し、ろう者との交流を楽しみながら学ぶ活動を続けています。

■ 活動内容

座間市手話サークル「星の会」は、北地区文化センターとサニープレイス座間を拠点にろう者と交流しながら日本手話の習得に取り組んでいます。定例の学習会（昼・夜各月4回程度）のほか、学校（小・中・高）、市役所、高齢者施設、障害者施設、社会福祉協議会への手話指導、防災安否確認訓練や福祉大会、社協福祉まつり、社会見学、特別学習会、クリスマス会、新年会、餅つき大会や芋煮会、夏休み親子手話講座など、親子が交流を通じて楽しく手話に触れられる行事も企画し、優しい気持ちを持った子どもたちの育成に力を入れています。

会員は手話初心者から手話通訳者まで幅広く、聴覚障害者協会とも連携して活動を行っています。また、災害時にろう者が困らないよう、防災連絡会を組織し、年間を通して会議を重ねています。今後も、健聴者とろう者が手を取り合う温かな交流の輪を広げていきます。



写真2 お店屋さんごっこを通してろう者と会話する様子



写真1 令和6年に創立50周年を迎え記念式典を開催

■ 活動の経緯・体制

サークルの始まりは、民生委員を中心に開かれた手話講習会で、手話を通して心を通わせながら学びを重ね、「星の会」を結成しました。会の名前の由来は、由緒ある市内寺院「星の谷観音」から一字をいただいたものです。会の結成以来、手話の学習と交流を通じて、地域に温かな輪を広げてきました。現在、会員は40名で、昼の部・夜の部それぞれ月4回活動しています。ろう者の方々も交え、手話を学びながら楽しく交流しています。

■ 活動の工夫・成果

メンバーは学習班と企画班に分かれ、工夫しながら学んでいます。会長は会員全員が交代で務め、多様な視点を取り入れています。活動方針としては、交流と体験を大切に、講座企画時には毎年テーマを変えて、手話を使ったお店屋さんごっこや夏祭り、デフリンピック選手との交流など、体験を通して学べる工夫を行っています。これまでに会員10名が通訳者となり、その他のメンバーも通訳者を目指して日々努力しています。

アウトドア活動を通した、健常者と障害者の交流の推進

功労者

■ 団体名・氏名

富山三つ星山の会

■ URL

[http:// www.mitsuboshi.sakura.ne.jp](http://www.mitsuboshi.sakura.ne.jp)

■ 基本データ

継続年数	26 年間
主な連携先	スポーツ施設、社会教育関係団体等
団体の規模等	100名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ハイキングやボルダリング、ブラインドスキー等のアウトドア活動を通して、健常者と障害者が交流する機会を設けています。仲間とのふれあいと、郷土の魅力に触れることを大切にしながら活動しています。

■ 活動内容

月1回、登山から各種レクリエーションまで、幅広くアウトドア活動に取り組み、障害者と健常者が共に自然を楽しみながら交流します。団体名「三つ星」は人、自然、山を愛すると共に、身体、知的、精神あらゆる障害の受容を意味し、健常者と同じ仲間との信念から、一人一人のウェルビーイング向上を目指した活動を展開します。

障害会員の9割は視覚障害で、登山やスキーは前後2名の健常者とパートナーを編成、ロープ等を介した信頼関係でつながり、剣岳登頂の全盲クライマーもいます。本会の専門技術を活用し、学校や行政等と協働する行事への講師ガイドの派遣等、社会貢献にも積極的に取り組みます。

きめ細かな配慮で障害者の外出機会を増やすと共に、ボランティア講座のサポート講習や講演動画のウェブ公開等で、パラスポーツの魅力を発信します。今年度もボルダリングやロゲイニング、自然観察、映画上映等、障害者と健常者が一緒に汗を流す多彩な企画を実施し、交流推進や余暇充実、パラスポーツの普及啓発を図ります。



写真2

サポート登山の様子



写真1 令和7年度視覚障害者サポートボランティア講座

■ 活動の経緯・体制

障害児施設等に勤務する桐井英志氏（現事務局長）に施設ボランティアで山仲間の袋谷循氏（初代会長）が視覚障害者と晴眼者が共に活動する山岳会の設立を提案。富山市の視覚障害の学校の協力も得て関係者に呼びかけ、平成11年7月、同校生徒保護者ら10名でスタート、大きく発展しました。全障害対象に障害者も支援者も同一名簿（障害者3分の1、運営役員20名）で障害者主体の丁寧な支援を末長く実践します。

■ 活動の工夫・成果

「何人にも山は開かれる」の理念の下、参加者のニーズや状況に合わせた内容の調整・工夫、体力・技量に応じた適切な山選定、障害者と支援者のマッチング等で全希望者を受け入れ、インクルーシブに活動します。同じ仲間として負担も分かち合い、交流や自然を楽しむことで、何にも代え難い達成感を得られます。活動の充実、安全や勧誘、啓発等のため関係機関と積極的に連携し、令和4年に富山県功労表彰を受賞しました。

障害のある人ない人の音楽交流会 ほのぼのコンサート

功労者

■ 団体名・氏名

ボランティアグループ アンダンテ

■ 基本データ

継続年数	25 年間
主な連携先	社会福祉法人、特別支援学校など
団体の規模等	12 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある人もない人も、子供から大人まで一緒に音楽やダンスを楽しめるコンサートを25年間で長年にわたり開催し、音楽やリズムを楽しめる場、障害に対する理解を深める場、地域の人との交流の場として、障害者の自己実現や社会参加を促進しています。

■ 活動内容

障害の有無にかかわらず、音楽の素晴らしさや演奏の感動を味わってもらおうと、平成12年から年に1回の「ほのぼのコンサート」の開催を目指して活動しています。年々地域住民の参加も増え、近年は約200名前後が集まるようになりました。クラシック音楽、童謡、アニメソングの楽器の演奏やダンス、特別支援学校卒業生や障害者施設の利用者の発表ステージなど、色々な音楽を聴いて、身体で表現したり、踊ったりして、自由に音楽を楽しんでいます。会場の設営や楽器運び、片付けなどもみんなで行っています。「アンダンテ」という音楽用語は、歩く様な速さという意味であり、急がず慌てず歩くような速さで25年間、コンサート活動を進めています。初回は児童であった出演者が成人になっても毎回出演しています。また、障害者就労施設等の販売コーナーの設置や大学のダンス部の合同ダンスでのつながりが他のイベントへの参加のきっかけにもなっています。



写真1 クラシック音楽などの演奏

■ 活動の経緯・体制

25年前に障害のある子どもが自由に好きな音楽を楽しめる場がほしいという声をきっかけに活動を開始しました。当初は、障害のある子どもとその家族の参加がほとんどでしたが、開催の回数が増す度に障害の有無に関わらず一緒に楽しめるコンサートが実現してきています。また、障害者施設のパン、野菜などを販売したり、障害のある方々の団体が会場準備、片付けにかかわったり、活動の推進に向けて関係団体が連携して行われています。

■ 活動の工夫・成果

心地よくなると自然に手拍子をして、大きな声を出しても、「ご自由にどうぞ」というスタンスで受け入れています。参加者は趣旨を理解しており、安心して過ごせる心地よい空間をつくっており、会場に一体感が生まれています。回を増すごとに他団体との連携も進み、地域とのつながりや施設の活動への理解促進、経済的支援にもつながっています。共に楽しむことで、インクルーシブな学びのきっかけとなる貴重な場となっています。



写真2 福祉施設の発表

学びたい・楽しみたい・自分らしく「こぶし青年教室」

功労者

■ 団体名・氏名

小松市手をつなぐ育成会 こぶし青年教室

■ URL

<https://www.facebook.com/tewotsunagu.komatsu/>

■ 基本データ

継続年数	57 年間
主な連携先	小松市手をつなぐ育成会
団体の規模等	46 名

対象	知的障害				
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発 その他

活動の概要

学校を卒業した知的障害のある方が、余暇活動や生涯学習、社会参加をする場として、50年以上にわたり活動しています。

■ 活動内容

学校卒業後の仲間づくり・余暇活動の場づくりを目的として、本人活動を、年間をとおして、保護者やボランティア等に協力を得ながら、自分たちで立案・実行をモットーに続けています。3月の年間反省会で、メンバー全員が集まり、年間計画を決め、5月の開講式で、その年度の参加者を募っています。楽しく体を動かすスポーツやダンス、自分たちでクリスマスケーキを作る調理教室、年に1度の日帰り旅行は、メンバーの多くが楽しみにしています。また、小松市から委託を受けた本人活動や文化芸術活動にも積極的に参加し、臨床美術・タブレット・書道・音楽など、趣味を生かした余暇活動や生涯学習に取り組んでいます。10代～60代までの幅広い年代の方が参加し、福祉事業所・一般就労・在学・在宅、軽度・重度の垣根を超えた繋がり作りが行われています。さらにそれぞれの活動の中で、自身の余暇活動の枠を超えた社会参加をすることで、地域の方々の協力のもと、知的障害のある方への理解促進にも貢献しています。



写真1

料理教室

■ 活動の経緯・体制

1955年当時、中学を卒業しても高等部の設置がされておらず、卒業後の社会生活や余暇活動などを支援する場がない中、小松市立戸城中学校特殊学級を卒業した青年を対象に「こぶし青年学級」が月1回程度開かれ、その後、他校の卒業生も含めた全市的な活動となりました。1968年の養護学校の設立とともに「こぶし青年教室」と改称、現在、育成会の役員が中心となり、活動が継続できるよう、会員の保護者、支援者に協力を依頼しています。

■ 活動の工夫・成果

各行事や活動の様子を育成会のFacebook等に掲載したり、カナつきで、わかりやすい言葉を選んだ開催等の案内を作成したり、情報提供に努めています。また、石川県立小松特別支援学校高等部の卒業時には、保護者の方へ入会案内をお渡ししています。こぶし青年教室の活動内容は、徐々に広がりを見せ、知的障害のある方の余暇活動の場としても認知されるようになってきています。



写真2

七尾での能登の方との交流会

車いすバスケットボールを通じた健常者と障害者の融合

功労者

■ 団体名・氏名

福井ラプターズ

■ URL

<https://www.instagram.com/fukuiraptors?igsh=MTA5eG84NDF6Ymlscw==>

■ 基本データ

継続年数	51 年間
主な連携先	しあわせ福井スポーツ協会
団体の規模等	17 名

対象

身体障害

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

福井ラプターズは、身体障害者および健常者を対象とした車いすバスケットボールチームです。日々の練習だけでなく、県外で開催される大会にも積極的に参加し、広く交流を図っています。車椅子バスケットボールを通じて、個々の成長と他者への理解を深め同じ目標に向かって活動する障害者と健常者との融合の場を創出しています。

■ 活動内容

現在は約20名の方が活動しており、小学生から70代まで、幅広い年齢層のメンバーが練習に取り組んでいます。週2回の練習を継続的に実施しており、年間を通じて約100日間の活動を行っています。また、県外で開催される大会にも積極的に参加し、他地域のチームや選手との交流を深めるとともに、自主的に体験会を開催するなど、競技人口の拡大にも努めています。

健常者に障がいスポーツを理解していただくため、小中高校、特別支援学校等に対し出前講座を行っています。年間約20校、約1,000人の児童生徒に対し講座を行い、障がい者との関わり方を考えるきっかけとなっています。

また、福井ラプターズ主催で年1回、小中学生の身体障害者を対象とした車いすバスケットボールの体験教室を行っており、車いすバスケットボールの普及や理解を深めるだけでなく、生涯にわたる余暇活動の充実にも貢献しています。



写真2 当チーム主催のちびっ子車いすバスケット体験会を終えて



写真1 京都チームとのリーグ戦in京都市

■ 活動の経緯・体制

福井県鯖江市にあった、労災リハビリテーションセンターを母体として、約50年前に現在の団体を設立しました。現在は、東海・北陸車いすバスケットボール連盟に所属し、上位クラス進出を目指しています。過去には、日本代表選手が2名在籍していた実績があり、小中学生をはじめとする若い世代が、未来の日本代表を目指して、日々熱心に練習に励んでいます。2019年から健常者も公式戦に出場可能となり健常者プレイヤーも増えてきています。

■ 活動の工夫・成果

コーチ兼選手の理学療法士が選手の特性に合った指導や身体のケアを行っています。車いすバスケットボールの初心者や運動に苦手意識のある方でも安心して活動できる環境が整っています。また、健常者と障害者が共にプレーに親しむことで、共生社会の実現への一助となっています。2022年IWBF男子U23車いすバスケットボール世界選手権大会で所属していた選手が日本代表に選出され、日本史上初の金メダル獲得に貢献しました。

バレーボール（精神）を通じた社会参加の促進

功労者

■ 団体名・氏名

レッド・サンズ

■ 基本データ

継続年数	16 年間
主な連携先	しあわせ福井スポーツ協会
団体の規模等	20 名

対象

発達障害、精神障害

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

レッド・サンズは、精神障がいを対象としたバレーボールチームです。日々の練習だけでなく、県外遠征や県内で全国規模の大会を運営するなど、県内外にわたり広く交流を図るとともに、バレーボール競技を通じて、精神障がいのある方の社会参加の場を創出しています。

■ 活動内容

現在は約20名が在籍し、20～30代の若手を中心に、年齢や体調に合わせた練習に取り組んでいます。週1回の定期練習（年間約60回）を継続して実施し、基礎練習とゲーム形式を組み合わせながら、参加者同士が声を掛け合い、安心して活動できる雰囲気づくりを重視しています。県外遠征や、県内での全国規模大会「東尋坊杯（精神の部）」の開催を通じて、県内外のチームと交流を深め、競技を通じた社会参加の場を広げています。医療機関や支援機関との連携体制の構築は今後の課題であり、主治医やリハビリ担当者と情報共有しながら、より安全で安心して参加できる環境づくりを目指しています。指導面では、初級パラスポーツ指導員としての知識を活かし、無理のない運動量設定や体調確認を行いながら練習を進めています。活動を通じて、参加者の自己肯定感や社会的つながりが高まり、就労や社会復帰への意欲向上にもつながっています。



写真1 週1回の通常練習（ディグ/レセプション）

■ 活動の経緯・体制

2009年に福井県福井市にある高志福祉会の活動をきっかけに設立しました。設立当初は、リハビリの一環としての活動であり、県障がい者大会でも1回戦で負けてしまう団体でしたが、2018年福井しあわせ元気大会をきっかけに、藤木氏が監督に就任し現体制になりました。しあわせ元気大会出場を目標とし、日々熱心に練習に励んだ結果、しあわせ元気大会出場を果たすだけでなく、全国障害者スポーツ大会で優勝を果たすチームに成長を遂げました。

■ 活動の工夫・成果

選手の体調や精神面に応じて練習方法を工夫しています。専門スタッフはいないが、指導者が初級パラスポーツ指導員としての知識を活かし、安心して参加できる環境づくりに努めています。全国障害者スポーツ大会では2023年かごしま大会、2024年SAGA大会に続き、2025年滋賀大会で福井県勢初の団体競技3連覇（V3）を達成しました。



写真2 鹿児島大会試合風景～2023年、2024年優勝記念写真

日々の生活に潤いと活力を～仲間とともに～

功労者

■ 団体名・氏名

恵那市の障がい児者の生活を豊かにする会

■ 基本データ

継続年数	34 年間
主な連携先	恵那市役所、恵那市社会福祉協議会
団体の規模等	40 名
対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「子どもの健やかな成長と明るい未来」を願って、1991年6月「恵那市の障がい児者の生活を豊かにする会」を結成しました。2010年から「青年の会（青年の余暇活動）」、2012年から「レストハウスみんなの部屋（障がいサロン）」「会員交流会（バス旅行・季節の行事）」などを開催しています。また、地域の障害者団体との交流会を実施しています。

■ 活動内容

月1回第3日曜日を「青年の会」と決め、音楽、切り絵、スポーツ（マレットゴルフ、ボッチャ、運動会）、調理等を行っています。特に2012年からは、音楽活動に重点を置き、講師を招いて、「トーンチャイム」の演奏に力を入れています。楽団「キラキラ星」を結成し、地域の音楽サークルと年一回、市内の文化センターでジョイントコンサートを行っています。

また、障害のある人もない人も気軽にのしゃべりを楽しむ「レストハウスみんなの家」を月1回、第一土曜日に開催しています。100円の会費でお茶やお菓子、軽食を食べながら、障害者とその保護者、地域の方々と交流を行っています。

年に一度、リンゴ狩りや動物園、水族館、飛行場、お城など青年たちの希望を取り入れ、社会見学を兼ねたバス旅行をしています。



写真1 トーンチャイムの練習の様子

■ 活動の経緯・体制

障害がある青年達は、学校を卒業後、家庭と作業所の往復の生活になり、楽しみや生きがいをもつことなく過ぎてしまいます。そこで、潤いと活力のある生活が送れるように活動を作り上げてきました。親が中心となり、地域の方、学校時代の恩師などがボランティアとして加わり活動しています。また運営資金は会員からの会費のほか、恵那市や恵那市社会福祉協議会、赤い羽根共同募金から援助を受けています。

■ 活動の工夫・成果

決まった曜日、時間、場所で開催することで、日常生活の一部として参加できます。また、参加者の希望を聞き、公共交通機関を利用できる安全な場所で活動しています。参加者からは「楽しい、待ち遠しい」といった声が、保護者からは「家族で会話が増えた」といった声があります。活動が、障害者の健康づくり、仲間づくり、学習などに寄与するとともに、日々の生活を豊かにし、潤いと活力のある生活づくりに役立っています。



写真2 ボッチャの練習の様子

障がい者スポーツを通じたユニバーサル社会づくり

功労者

■ 団体名・氏名

大塚 康夫

■ URL

<http://www2.tokai.or.jp/pfa-S/index.html>

■ 基本データ

継続年数	44年間
主な連携先	行政（保健福祉・教育）、スポーツ団体、学校
団体の規模等	—

対象

すべて

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

障がい者スポーツ指導の経験を活かして定期的なスポーツ教室の企画運営や巡回指導の他、指導者育成、県内のフライングディスク競技大会の運営協力に携わっています。また、毎年開催される全国障害者スポーツ大会の団長並びに競技監督を歴任する他、アジア地域(韓国、モンゴル等)における障がい者スポーツ大会の開催及び交流、用具寄贈等の支援を行っています。

■ 活動内容

主には、障がいのある方全てを対象にしたスポーツ教室を開催しています。幅広い年齢層の方が参加しますので、参加される方の障がいの特性に応じてルールを臨機に変更したり、用具を工夫したりして「参加して楽しかった。また来たい」と思っているだけ毎回の、内容を少しずつ変えて「出来ることを増やす」ことを重点目標に取り組んでいます。このほか、特別支援学校や福祉施設、教育機関(小・中学校)からの要請を受けて、障がい者スポーツ(ボッチャ・フライングディスク等)の指導や出前講座の講師を務めたり、視覚障がいのある人やその付添者を対象にフロアバレーボール教室の指導を定期的実施する中で、「障がい」の理解と「工夫や配慮」で誰もがスポーツを楽しむことができることを肌で感じてもらっています。さらに、アジア地域(韓国、モンゴル等)の障がい者団体と一体となって障がい者フライングディスク競技大会を通じた交流活動を毎年行い、スポーツの持つ力や楽しさを発信しています。



写真1

スポーツ教室の様子

■ 活動の経緯・体制

障がいのある方を対象とした期間限定の卓球、水泳、バドミントン等の教室運営に携わるなかで、障がいのある方や保護者の方から、年間を通じて継続的に活動ができないかとの要望を受けました。そこで、まずは組織作りとスポーツ環境の整備が必要と考えたことから、特定非営利活動法人しずおか障がい者フライングディスク協会を設立し、行政・教育機関、関係団体等と連携して障害者スポーツの普及啓発活動に努めています。

■ 活動の工夫・成果

参加される方の障がいの程度に合わせて競技規則を一部変更したり、用具を工夫したりするなど、「参加が可能になる」「出来ないことが出来るようになる」ことを心掛けながら活動しています。令和6年度は、スポーツ教室等に4,336人の参加者が集まり、令和5年度と比較すると570人増加しました。参加者は増加傾向にあり、これは、障がい者スポーツがより身近なものとして定着しつつあると言えます。また、これを機に各種大会への出場意欲の向上に繋がるなど大きな成果を挙げています。



写真2

韓国済州FD大会の様子

誰もがチャレンジできるミュージカル

功労者

■ 団体名・氏名

バリアフリーミュージカル劇団《夢バッグ》

■ URL

<http://yumebag-okazaki.jimdofree.com>

■ 基本データ

継続年数	14年間
主な連携先	特定非営利活動法人岡崎市障害がい者福祉団体連合会
団体の規模等	スタッフ8名・団員17名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある人と、そうでない人が協働して、オリジナルのミュージカルを上演する劇団。演劇の稽古という形を取りながら、様々な立場・状態の人たちとの出会いや交流の場を提供します。公演やイベントを通し、来場者に団員達のエネルギー溢れるパフォーマンスを楽しんで頂き、文化的なバリアフリーについて思いを寄せて頂いています。

■ 活動内容

稽古は毎月第1日曜日と第3日曜日にあります。これまでに本公演5回、イベント主催2回、他に地域のイベント参加多数をこなしてきました。

初めは「子どもたちのために」「会計係としてなら」など、保護者の立場で参加していた母親たちが、いつの間にかステージ中央でスポットライトを浴びながら熱唱する姿も見られます。

また、当劇団が主催するイベントでは、ミュージカルの発表だけではなく、市内にある福祉事業所等のマルシェや、障害をもった方たちの絵画展も同時企画して、多くの来場客に楽しみながら障害者の方たちの存在を知って頂いております。

私たちスタッフも含め、団員の誰もが「私はみんなから大切にされている」「みんなから必要とされている」と感じられる空間を目指して今後も私たちは活動を続けていきます。



写真1 第4回本公演『ミュージカル・ヒストリー・ツアー』

■ 活動の経緯・体制

2009年11月、劇団代表が講師を務める「岡崎手をつなぐ育成会・音楽サークル」で初のオリジナルミュージカルが披露されました。小学校の先生、音楽療法家、地元の劇団員等、多くのボランティアに支えられ、大盛況のうちに幕を閉じました。2年後、あの感動をもう一度という声に励まされ、ミュージカル劇団が誕生しました。

■ 活動の工夫・成果

- 『完全オリジナルの作品』役者一人一人の個性を引き出しながら、魅力を最大限発揮できるような役柄、歌、セリフを組み合わせ、私たち独自の劇を創り上げます。
- 『役者を支える黒子の存在』セリフが覚えられなかったり、不安で落ち着かない役者のために、何人ものスタッフが黒子として横につきます。こうしてみんなが安心して輝けるステージが創られます。



写真2 黒子さんに支えられての舞台

響け、わたしたちの音色！つくろう、みんなのパラダイス！

功労者

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人 パラダイス

■ 基本データ

継続年数	16 年間
主な連携先	社会福祉法人 豊川市社会福祉協議会
団体の規模等	30 名
対象	精神障害・知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

- (1) 障害者の余暇文化活動支援事業
- (2) 障害者の福祉啓発事業
- (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

■ 活動内容

主な活動は、障害のある方の余暇文化活動支援事業（和太鼓パフォーマンスの練習、生涯学習支援）と福祉啓発事業（和太鼓のパフォーマンス発表や交流の場を設けること）です。わたしたちの活動は、一人ひとりの特性に応じたコミュニケーションを大切にしています。

活動発表の場として、不特定多数の来場を見込むイベントでのパフォーマンスを継続しながら、障害のある方への理解を深める啓発活動に尽力しています。

また、施設訪問やイベントへの参加を通して、共に楽しみ、交流を深めています。

<主な出展イベント>

- (1)ふれ愛・みんなのフェスティバル
- (2)東三河ボランティア集会

この他にも、余暇支援活動（カラオケ、ダンス、クリスマス会、ボーリング、描画、工作等）や生涯学習（社会見学、茶華道、スポーツ、調理、消費生活等）を行い、障害のある方の興味・関心や必要性に応じた支援に努めています。



写真2 ふれ愛・みんなのフェスティバル和太鼓パフォーマンス



写真1 上：救命講習の様子 下：調理実習の様子

■ 活動の経緯・体制

設立当時、障害のある方の余暇活動の場は広がりつつあったものの、十分ではありませんでした。そうした現状を踏まえ、子どもたちに合ったパフォーマンス活動やレクリエーション活動を行い、その発表を行うことで、彼らの生き生きとした姿を伝えたいという願いから設立しました。

■ 活動の工夫・成果

和太鼓パフォーマンスの活動に伴い、使用する消耗品の劣化も進みます。そうした中、活動継続のために、赤い羽根共同募金を財源とする助成事業に応募する等、活動資金の確保を工夫しています。

また、コロナ禍においても、行政からの指針を守り、感染対策を図り活動継続に努めてきました。

さらに、新規会員を募るために社会福祉法人豊川市社会福祉協議会ボランティアセンターで手作りの案内チラシを掲示しています。

目になって声を届ける

功労者

■ 団体名・氏名

河内長野音訳サークル「あい」

■ 基本データ

継続年数	40 年間
主な連携先	図書館、社会福祉協議会
団体の規模等	23 名

対象	視覚障害 その他紙の本が読めない人
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

図書や文書の音訳を行っています。視覚障害者個人からの依頼を始め、図書館や社会福祉協議会、市役所から依頼を受けて、広報等や図書の音訳をしています。また、会独自の声の雑誌を年6回製作し、視覚障害者宅を訪ねて手渡しで配付しています。

■ 活動内容

設立から40年にわたり、視覚障害者等の「目」になろうと音訳に携わってきました。かわちながのボランティア・市民活動センター（河内長野市社会福祉協議会 内）と河内長野市立図書館の録音室の2拠点で活動しています。また長時間を費やす書籍などの音訳は家庭録音が中心です。

リスナー（視覚障害者）からの個人的な録音依頼のほか、声の雑誌「アラカルト」を年6回発行し、リスナーの自宅を訪ねて手渡しています。リスナーとの付き合いも長くなり、変わらずお元気な姿を拝見できるのも活動を続ける楽しみのひとつとなっています。

図書館や社会福祉協議会、市役所など公的機関からの依頼を受けて、市広報等の音訳も行っています。

リスナー・会員ともに高齢化する中、新たな利用希望者、新たな会員を増やすようさまざまな働きかけをしています。



写真 1

録音風景

■ 活動の経緯・体制

昭和59年（1984年）度開催の河内長野市社会福祉協議会による講習会の修了生により翌年発足し、その後も講習開催の度に修了生が加わる形で人数を確保してきました。平成14年度には市立図書館によるデ이지ー編集研修会、平成15年度に府立図書館によるプレクストークレコーダーの講習会に参加するなどして、テープ録音からデジタル録音への移行に対応しました。現在はコロナ禍以降、初めて迎えた新入会員の育成に注力しています。

■ 活動の工夫・成果

図書館には、市広報、市議会だより、社協だより、図書館だより以外に367タイトルの録音図書を提供（令和7年10月現在）しました。このうち44タイトルは図書館を通じて国立国会図書館による視覚障害者等用データ配信サービスに提供されています。

経験豊富な先輩からのバトンを受け継ぎ、目で見えている情報を正確に伝えられる音訳を目指して皆で和気あいあいと楽しみながら切磋琢磨しています。



写真 2

月1回の例会の様子

豊岡市青い鳥学級

功労者

■ 団体名・氏名

豊岡市青い鳥学級運営委員会

■ 基本データ

継続年数	38 年間
主な連携先	豊岡市教育委員会教育総務課
団体の規模等	スタッフ 6 名、生徒 8 名、協力員 7 名程度
対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障害者が、社会人として幅広い教養や実用的な知識・技能等を習得するとともに、広く市民との交流の場を通して相互理解を深め、ともに生きる喜びを創造する場を提供しています。

■ 活動内容

豊岡市青い鳥学級運営委員会は、合併前の旧日高町で1987年に発足しました。当初は、行政の直営によりボランティアの協力を得て、事業を実施していましたが、2015年からは従事していたボランティアを中心に運営委員会を再構成し、市から事業を受託する形で今日まで活動を継続しています。生徒は、高齢の視覚障害者が多く、外出に対するハードルが高いですが、芸術鑑賞や社会見学などを通じ、生きる喜びを感じていただけるように活動をしています。芸術鑑賞は、地元の音楽家による演奏で一緒に歌ったり、舞踊よさこいでは鳴子の持ち方・鳴らし方を教えてもらったりするなど、鑑賞だけでなく体験も楽しめる取組にしています。神社仏閣へ出かける際は、宮司や住職のお話を聞く機会も設けて、視覚以外でも満足できるように工夫しています。12月には自分たちで打ったそばを食べるのが恒例となっており、生徒にとっては風物詩のひとつとなっています。



写真 1

舞踊よさこい

■ 活動の経緯・体制

視覚障害者の方へ生きがいづくりの場を提供することを目的に1987年に発足しました。現在は、運営スタッフ 6 名で会の企画等を行い、生徒の家族や生徒に付き添うヘルパーや地域の方にもご協力をいただきながら、屋内での活動ほか、周辺地域にも外出するなど、年 7 回程度、楽しく活動をしています。また、新規のスタッフ・生徒の確保にも力を入れて取り組んでおり、今年度スタッフ・生徒それぞれに新たな 1 名が加わりました。

■ 活動の工夫・成果

聴覚・触覚・嗅覚・味覚でいかに楽しんでもらえるかを工夫し、高齢の生徒にとって負担の少ない活動となるよう努めています。スタッフと生徒は長年の信頼関係のもとでコミュニケーションを取り、安心できる居場所づくりに力をいれています。

生徒は活動を楽しみにしており、毎年継続的に参加されています。生徒の満足度が高い取組は、継続して実施しており、恒例行事となっているものもあります。



写真 2

そば打ち体験

わかとり青年学級

功労者

■ 団体名・氏名

わかとり青年学級

■ 基本データ

継続年数	40 年間
主な連携先	鳥取県、鳥取県手をつなぐ育成会、鳥取市社会福祉協議会
団体の規模等	40 名

対象

知的障害

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

在宅の知的障がいの方々に余暇支援を提供しています。自宅・グループホーム等から勤め先の企業や作業所への往復になりがちな日常生活に、余暇を楽しむことで、生活に広がりや潤いを持っていたでいます。また、社会的なルールやマナー、環境の変化に上手に対応できる等たくましさを身につけてほしいと考え活動しています。

■ 活動内容

企業や作業所、福祉施設に通っている知的障害の方々に余暇支援を提供しています。年間7回～10回程度の行事を当事者自らが企画し、約40名の当事者、ボランティアが活動に参加しています。活動は、グランドゴルフやボーリング等身体を動かすこと、美術館見学等の文化活動、家庭で簡単な調理ができるように調理実習等を柱にしています。令和7年度を例に紹介しますと、4月に総会・レクリエーション、6月は汽車を利用して倉吉市の県立美術館見学。7月は調理実習でチャーハンやサラダ作り。10月は大阪のUSJに行きました。今後、12月はクリスマス会。1月は当事者の健康を祈願する初詣。3月は反省会の予定です。1年に1回、観光バスを利用して日帰研修旅行に行っています。日頃旅行の機会の少ない方に、県外旅行を提供することで、幅広い体験、社会性や当事者同士の仲間づくりを期待して実施しています。皆さん、毎年大変楽しみにしています。



写真2 「バーベキュー」 飯ごうでお米を炊きました



写真1 鳥取県若桜町 「響きの森」 工作体験

■ 活動の経緯・体制

40年前の昭和60年に鳥取県で開催された、わかとり国体の年に設立した任意団体です。

設立には施設職員や元教員の方が力を尽くしました。令和7年度は参加当事者30名程度、ボランティアとして活動を支えるのは7名程の保護者、OBを含めた福祉関係者3名程です。主に鳥取市の公共施設「さざんか会館」や「さわやか会館」を利用しながら活動しています。

■ 活動の工夫・成果

当事者8名の役員が1年の活動計画を主体的に話し合い、その案を後日、当事者・ボランティア全員で再検討した上で行事を決定、実施しています。行事の度に近況を話していただきますが、年々自分の気持ちを上手に話せるようになったり、普段とは違う仲間と会うことで、仲間意識やコミュニケーションも上手にとれるようになってきました。また、公共交通機関を利用する方は、乗車を楽しむと同時にマナーも向上しています。

文字を点字に！視覚障がい者に情報を！！

功労者

■ 団体名・氏名

点字グループ「あけぼの」

■ 基本データ

継続年数	46 年間
主な連携先	社会福祉協議会、小学校、中学校、高等学校等
団体の規模等	12 名

対象

視覚障害

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

視覚障がい者の点訳ボランティアとして、市広報、市議会だより、市社会福祉協議会だよりなどを点訳しています。また、小学校・中学校・高等学校における点訳指導や、点訳奉仕員養成講座を実施しており、視覚障がい者の情報保障、担い手育成、普及啓発活動に積極的に取り組んでいます。

■ 活動内容

点字グループ「あけぼの」は、広島県大竹市において、地域で唯一の点訳ボランティア団体として活動しており、現在、市広報（毎月発行）・市議会だより（年4回発行）・市社会福祉協議会だより（隔月発行）等を点訳し製本して、市内の利用者に届けています。また、市内の小学校・中学校・高等学校での点訳指導の実施、市の障害者社会参加促進事業に協力して点訳奉仕員養成講座の実施などの活動を行っています。

視覚障がい者にとって、市の制度や行事の情報を知ることができるかけがえのないものであり、点訳ボランティアも、必要としている人が一人でもいればやらないといけないという使命感を持って活動を継続しています。活動は40年を超え、点訳実績は45万ページを超えています。

今後も、学校での点訳指導や点訳奉仕員養成講座の実施を通じて、若年層の新たな会員の参加による持続的な活動を目指して、引き続き次代の担い手育成に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



写真1 点字グループ「あけぼの」のみなさん

■ 活動の経緯・体制

昭和54年に、点訳の養成講座の受講者が集って結成し、視覚障がい者の依頼により、料理のレシピ・JR時刻表・ゴミカレンダー・小説・電化製品説明書などの点訳活動を開始しました。その後、平成6年から市内の学校での点訳指導を開始し、平成12年から市広報等の点訳と点訳奉仕員養成講座を実施しています。

現在、大竹市民を中心に会員12名でこれらの活動に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

結成当初は、点字盤を使用して全て手作業で点訳しており、一つ一つ穴に凹凸を付ける大変な作業でした。現在はPCで点訳しており、各会員で点訳したものを持ち寄り製本しています。例えば市広報の場合30ページ程度であったものが何十倍の厚みで製本され毎月利用者に届けています。また、学校で点訳指導を実施する際は、名刺やはがきを作成するなど児童生徒が楽しく親しみながら学べる工夫を凝らして実施しています。



写真2

活動風景

いつか咲く手話の花の小さな種を蒔きながら

功労者

■ 団体名・氏名

府中手話サークル トロッコ

■ 基本データ

継続年数	49 年間
主な連携先	社会福祉協議会、小学校、中学校、医療機関等
団体の規模等	12 名

対象

聴覚障害

活動分野

学習

文化芸術 スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

手話通訳活動を通じた聴覚障害者支援に幅広く取り組んでおり、聴覚障害者と健聴者がともに手話を学び交流し、支援者と当事者がともに聴覚障害や手話を市民に伝えていく機会を創出しています。手話ボランティア養成講座と手話サークル活動の開催のほか、手話通訳者の派遣、小学校・中学校での福祉体験学習の講師、市のイベントでの広報活動など積極的に活動しています。

■ 活動内容

府中手話サークル トロッコは、広島県府中市において手話ボランティア団体として活動しており、現在、手話ボランティア養成講座の開催（初級・フォローアップをそれぞれ隔週で実施）、手話サークル活動（手話ボランティア養成講座の実施週以外の週で実施）のほか、依頼に応じた手話通訳者の派遣、小学校・中学校での福祉体験学習の講師、ボランティア活動を通じた聴覚障害者との交流などの活動を実施しています。聴覚障害者の方が取り残されることなく、地域の一員として一緒に活動していくことを大切にしながら、50年近くに渡って手話通訳活動を継続しています。

これからも聴覚障害者支援を十分に行っていくためには、後継育成が喫緊の課題であり、手話通訳の担い手を増やし、専門用語や意図を齟齬なく通訳する手話技能向上が必要となります。今後も手話通訳活動の学習、普及啓発活動を通じた後継育成、手話技能向上に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



写真 1

ろう者との交流会

■ 活動の経緯・体制

昭和51年に、聴覚障害者支援をされていたご夫妻が開催していた手話講習会に集った有志で結成し、手話ボランティア養成講座の開催、手話サークル活動、手話通訳者の派遣などの活動を開始しました。その後、学校での福祉体験学習の講師など活動を広げています。

現在、府中市民を中心に会員12名でこれらの活動に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

子供の時期から障害者支援活動の普及啓発、理解促進に取り組むことが大切と考えており、学校の福祉体験学習に積極的に関わっています。支援者と聴覚障害者が実際に学校に出向いて指導し、児童生徒に障害の程度や生活上できること、困っていることの具体的内容など当事者の声を直接届けるように工夫しています。児童生徒が聴覚障害者の困りごとを実感し、障害の程度に応じた支援方法などを学習できる機会の増加に繋がっています。



写真 2

小学校での体験学習

盲ろう者の自立と社会参加をめざして！

功労者

■ 団体名・氏名

山口盲ろう者友の会

■ URL

<http://ymgdb.hatenablog.com/>

■ 基本データ

継続年数	27 年間
主な連携先	全国盲ろう者協会 等
団体の規模等	185 名
対象	盲ろう者
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者は、コミュニケーションや単独での外出が難しいという特性があります。そのため、盲ろう者の自立と社会参加を促進することを目的に、コミュニケーション支援、日常生活訓練、情報機器の学習、歩行訓練等を行っています。

■ 活動内容

盲ろう者は、障害の程度により弱視難聴・弱視ろう・盲難聴・全盲ろうのタイプがあり、一人ひとりコミュニケーション方法が違うため、他者との会話が難しく、周囲の状況も分からず、家の中で孤独な生活を余儀なくされています。また、個人情報という壁があり、盲ろう者の存在を知る事が出来ません。情報が入った時には、訪問や交流をしながら、当事者の希望に沿って以下の学習などを行っています。

手話・触手話・点字・指点字・手書き等のコミュニケーション学習、スポーツ・料理・防災等の日常生活訓練、ブレイルセンス（点字と音声による情報端末）・パソコン・スマホ等の情報機器の学習、白杖歩行訓練等を行っています。これらの支援を提供するために、講師の指導も受けながら、盲ろう者通訳・介助員が日頃から専門的な知識・技術の習得に務めています。社会では、「盲ろう」という障害を知らない人も多いため、県や市町の協力を得ながら啓発活動も進めています。



写真2 手書きでブレイルセンス講習



写真1 盲ろう者友の会設立20周年の集い

■ 活動の経緯・体制

27年前、盲ろう者の存在を知った有志が、盲ろう者と共に歩もうと友の会を立ち上げ、交流の場を作りました。その後、様々な学習を通して、活動の場を広げてきました。県全体や支部での交流、全国盲ろう者大会・中四国大会などにも参加し、多くの学びを得ています。

今では、盲ろう者22名を含む会員が185名となり、県や市町また他団体のサポートを受けながら、幅広く活動しています。

■ 活動の工夫・成果

盲ろう者一人ひとりに合わせて、通訳・介助員を派遣し、講師と共に様々な学習を進めています。

コミュニケーション学習や、スポーツ（マラソンやタンデム自転車、ヨット体験等）、情報機器の学習等することにより、盲ろう者が積極的に社会参加できるようになってきました。また、家にこもりがちな盲ろう者が、これらの活動をすることによって、日常生活をより楽しむようになりました。

パラスポーツの普及促進 ～共生社会の実現に向けて～

功労者

■ 団体名・氏名

秋田 景旨

■ 基本データ

継続年数	36 年間
主な連携先	徳島県パラスポーツ協会等
団体の規模等	会長以下役員計 7 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

徳島県障害者スポーツ指導者協議会会長や徳島県ボッチャ協会監事として、指導者の育成に努め、かつ徳島県パラスポーツ協会の「とくしまパラスポーツ人材バンク」に登録しており、県内各地でパラスポーツの普及促進に携わっております。

■ 活動内容

平成 6 年に、ボランティア団体である「徳島県身体障害者スポーツ指導者連絡協議会」を設立し、以降障害者のライフステージにあわせたパラスポーツ活動の推進を図るため、パラスポーツの普及・啓発、指導に貢献しております。

また、徳島県ボッチャ協会監事にも就任し、ボッチャをはじめとした、県内のパラスポーツ競技の普及及びパラスポーツ指導者の育成に携わっております。

また自身も、徳島県パラスポーツ協会の人材バンク（スポーツサポーター）に登録しており、ボッチャ等のパラスポーツの普及に携わりつつ、他団体が開催するパラスポーツイベントの運営等にも協力することで、県内の障害者がスポーツができる機会の創出をサポートするなど、生涯にわたり、スポーツを続けることができる環境整備に大きく貢献しています。



写真 2

ボッチャ指導の様子



写真 1

カローリング指導の様子

■ 活動の経緯・体制

平成19年に徳島県障害者スポーツ指導者協議会*の会長に就任した実績があり、現在もパラスポーツ指導者の育成に尽力しています。また、自身も（公財）日本パラスポーツ協会公認「中級パラスポーツ指導員」の資格を取得しており、パラスポーツの普及・啓発等、パラスポーツの機運醸成に取り組んでいます。

*平成11年に徳島県身体障害者スポーツ指導者連絡協議会から名称変更

■ 活動の工夫・成果

ボッチャ競技において、障害者の参加者に対し、参加者の見え方に応じた配慮、また競技の指導だけでなく、障害の特性に応じた声かけ等、障害者のライフステージにあわせたパラスポーツの普及促進に取り組み、障害の有無、年齢に関係なく、誰もがスポーツを楽しむ場の提供を行い、生涯スポーツの推進、共生社会の実現に向けて尽力しています。

点訳図書の製作と視覚障がい者の社会参加活動

功労者

■ 団体名・氏名

徳島県点訳友の会

■ 基本データ

継続年数	54 年間
主な連携先	徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センター
団体の規模等	71 名
対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

四国放送ラジオ番組表点字版作成 年2回（4月、10月）

点字図書製作

点字体験教室での指導

徳島県点訳友の会勉強会開催

■ 活動内容

「徳島県点訳友の会」は、徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センター実施の点訳奉仕員養成講座修了者71名が活動を行っています。センター内にある点字図書館の利用者の方々から「好きな本や重要なことは点字で何度も繰り返し読みたい」という声をいただいています。より読みやすい点訳を目指し、勉強会では意見交換をしたり、先輩会員からアドバイスを受けながら点訳技術の向上を図り、研修会参加などでも、点訳技術や知識をスキルアップすることで視覚障がい者の社会参加の一端を担っています。年1回の県外視察や、2018年に視覚障がい者の方々と一緒に開催した「耳と心で文化を感じる秋の芸術祭」などの点訳以外の活動や、新たに開始した楽譜点訳の勉強会などを通して、視覚障がいのある方の芸術文化に親しむ機会や余暇活動の広がり、学びに大きく寄与することができればと考えています。今後も点訳活動を通し、たくさんの方と交流し、活動の幅を広げていきたいと思ひます。



写真 1

勉強会の様子

■ 活動の経緯・体制

1965年 10名程のボランティアが集まり点訳奉仕活動を開始。1971年に徳島県立盲人福祉センター点訳奉仕者友の会発足。その後、2006年に「徳島県点訳友の会」に改称し、現在70名を越える会員が在籍。徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センターにて、毎月勉強会を開催し、会員同士の意見交換や交流をはかりながら、点訳図書製作を中心に活動しています。

■ 活動の工夫・成果

会員には盲学校卒業生や保護者の方、視覚に障がいのある方も在籍し、点訳終了後の校正に携わり、より読みやすい点字図書の製作を目指しています。また、徳島県立障がい者交流プラザ視聴覚障がい者支援センターのイベントにボランティアとして参加し、視覚に障がいのある方と交流したり、小学校などへ点字の出前授業を行ったりと幅広く活動し、交流の輪を広げています。



写真 2

友の会主催の芸術祭を開催

和太鼓を用いた即興的な太鼓表現活動

功労者

■ 団体名・氏名

カウンセリング・アート鼓舞

■ URL

<https://artkomai.wixsite.com/home/artists>

■ 基本データ

継続年数	31 年間
主な連携先	宇和島市教育委員会等
団体の規模等	50 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある子どもから大人、家族、支援者による即興輪太鼓表現活動を通じ、障害のある人たちの社会参加と芸術文化の裾野を広げる活動を行っています。

■ 活動内容

障害の有無に関わらず、誰でも参加できる即興手法を用いて、輪太鼓（クリエイティブな和太鼓表現活動）とダンス（動きが絵になる即興的表現活動）を行っています。演奏（身体表現）者の個性的な表現を推し進め、無我夢中になるような遊びを大切に空間づくりを行っています。

多くのイベントに参加し演奏を披露しています。人前で演奏することは、地域の人たちへ本活動を発信するとともに、演奏者の自己表現能力育成の一助となっています。また、障害のある子どもを持つ家族同士が交流できるイベントや、保育園、学校、介護予防プログラム、高齢者施設、こども食堂等幅広く、訪問指導や体験活動を行っています。

誰もが喜びの体験ができるよう工夫した活動を通して、自己肯定感を養ってもらうことで、地域で前向きな生活を送ることができるよう支援しています。



写真2 クリエイティブな和太鼓表現活動



写真1 輪太鼓どんどこどん in 宇和島 2024

■ 活動の経緯・体制

1994年に、障害のある子どもとその家族への余暇活動支援として、「太鼓とダンスのつどい」（楽鼓）を開催しました。その後、宇和島市手をつなぐ育成会イベントで市内事業所の利用者仲間で結成した「宇和島ゆうあい太鼓」の活動、活動30年目の2024年全国手をつなぐ育成会連合会全国大会愛媛大会本人大会分科会での発表等、重度の障害を持つ方も共に楽しめる社会参加を保護者、支援者とともに手がけています。

■ 活動の工夫・成果

重度の障害を持つ方が楽しめる即興音楽療法を用いて、輪太鼓演奏やクリエイティブなダンスを行います。障害のある方の動きをミラーリングし、表情や動き、振り、太鼓の音の増幅を通して共鳴・創造していきます。その結果、「曲ありき」でなく「その人ありき」な演奏やダンスが生まれてきます。個と向き合うことを特に大切に、ノーマスティブ（間違いのない）活動として、誰でも参加がしやすくなるよう工夫しています。

障害者にやさしい地域社会の実現にむけて

功労者

■ 団体名・氏名

伊方町精神保健
ボランティアグループ「なぎさ」

■ 基本データ

継続年数	18 年間
主な連携先	社会教育関係団体、行政、家族会等
団体の規模等	180 名
対象	精神障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

町民に、精神保健を中心とした社会福祉に対する理解と活動への参加を促したり、精神障害者と地域の橋渡し役として、相互交流の場づくり、イベント等の開催を通して、精神保健福祉に関する正しい知識の普及啓発活動を行ったりしています。また、周囲との関わりから、生きる喜びや自立に向けた生活支援も実施しています。

■ 活動内容

地域住民と共に環境美化に取り組み、障害者への理解を深めることを目的に、平成22年度より、ゴミ0運動を継続中です。また、外部との交流を促すため、大型スーパーや専門店で買い物支援をしたり、希望や要望を聞いて、2～3か月に1回程度、外出支援（バラ園や、そうめん流し、初詣、ボウリングなど）をしたりしています。買い物支援では、欲しいものを各々考えて購入するため、購入できた時の達成感もより一層高まります。

年に1度の七夕交流会やクリスマス会は、障害者やその家族にとって貴重な体験の場になっているだけでなく、障害に対する理解を深める場にもなっています。また、すみれ会では、毎月1回調理実習と昼食交流会を実施し、自立に向けた支援をしています。

これらの活動報告や、会員・参加者の声を届けようと、年2回「なぎさ通信」を紙面で発行しています。



写真2 七夕交流会飾りつけ作りの様子



写真1 ゴミ0運動の様子

■ 活動の経緯・体制

昭和50年頃より、伊方町では家庭訪問を開始しました。町内に精神科医療機関がないため、精神デイケアなどを実施していく中で、2つの家族会が結成され、町営の小規模作業所が2か所開設されました。平成19年に第1回ボランティア講座を開催したのち、講座修了生が「伊方町精神保健ボランティアグループなぎさ」を立ち上げ、正会員30名、賛助会員150名で活動을続け、今日に至ります。

■ 活動の工夫・成果

毎月1回、カレーの日を設け、通所されている障害者の方と食事をしながら、ふれあえる場を設けています。お互いにリラックスした状態になることで、会話が弾みます。また、外部との交流を促すための外出支援では、環境の変化の中でも、参加者が自立して伸び伸びと活動できるような支援を心がけており、毎回楽しみにしてくれています。

大刀洗流のつどい方で楽しんじゃおう！ 「サマースクール・ウインタースクール」


 功労者

■ 団体名・氏名

大刀洗町障がい児・者親の会
「障がいとともにあゆみ隊“ぼけっと”」

■ 基本データ

継続年数	17 年間
主な連携先	大刀洗町地域自立支援協議会
団体の規模等	23 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

2008（平成20）年から、対象者を限定せず、広く障害児・者に関する問題について語り合い、活動しています。障害をもつ当事者及びその家族が、将来にわたり健やかに、いきいきと生活できる社会を実現することを目的に、地域住民との交流活動（レクリエーションや学習会、関係機関との連携、地域での啓発活動など）を行っています。

■ 活動内容

障害児・者の地域での居場所、活動場所を作り、当事者の興味関心を広げ、地域の方との交流の機会をつくりたいと考え活動を行っています。主な活動は、月1回の定例会（レクリエーション・学習会）、大刀洗町自立支援協議会の協力を得た年2～3回の体験活動です。サマースクール・ウインタースクールでは、日中活動として、「大刀洗町体育協会グラウンド・ゴルフ部」の協力でグラウンド・ゴルフ、「いきいき幸せ大刀洗の会 ひと花咲かせ隊（園芸ボランティア）」の協力で寄せ植えを行いました。夕方・夜間活動として、「灯わ会（竹灯籠作りの会）」の協力で竹とろう作りと点灯式、テントを立て自分の落ち着く空間を作り、カレー作り、花火、宿泊体験をしました。地域でライフワークを楽しんでおられる方やボランティア活動をされている方々の柔軟かつ意欲的な協力のお陰で、活動の場を継続することができています。



写真1 ウインタースクール「寄せ植え体験」

■ 活動の経緯・体制

放課後等デイサービスなどのサービスがなかった頃、「ぼけっと」会員の「休日や長期休暇中等に障害児・者が、地域で活動する機会をつくりたい」という思いから、大刀洗町自立支援協議会の協力を得て、活動が始まりました。自立支援協議会に参加する福祉事業所のスタッフの協力を得て運営し、保護者や家族と一緒にいなくても、当事者が安心して活動に参加できる体制を整えています。

■ 活動の工夫・成果

専門知識のある自立支援協議会スタッフの助言を受け、活動の見通しや場面の切り替えなどをしやすく、活動への参加の仕方は当事者が選べるようにしています。

また、特性や障害種・程度も多様なため、当事者の体調管理や安心・安全に参加できる環境作りを大事にしています。活動後、当事者と地域の方が偶然会った際に声をかけ合えるような、地域でのつながりをつくる活動になっています。



写真2 定例会「Let's クッキング」

福岡県（福岡市）

障がい者生涯学習「フレンドホーム文化教室」 — 創造する楽しさ・学ぶ喜び・つながる生きがい —

功労者

■ 団体名・氏名

社会福祉法人福岡市身体障害者福祉協会

■ URL

<https://c-fukushin.or.jp>

■ 基本データ

継続年数	22 年間
主な連携先	行政（福岡市）、障がい者関係団体等
団体の規模等	248 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

市内の障がい児者を対象に、「創造する楽しさ」「学ぶ喜び」「生きがいを高める」「仲間づくり」など、豊かな日常生活を送る生涯学習の場を提供するため、多彩な文化教室の企画・運営を行い、多くの障がい者の方々に利用してもらっています。

■ 活動内容

市内に7か所ある障がい者フレンドホームのうち、4か所の指定管理を当法人が受託しています。各フレンドホームでは、未就学児から高齢者まで、世代を超えて学べる生涯学習の場として文化教室を開講しています。

講座内容は文化や芸術、スポーツ、教養など多彩で、多くの障がい者の方々に利用いただいています。

講座は単発から定期まで柔軟に設定し、時代や社会の動きにも目を向けて企画・運営が行われ、近年は保護者支援や、不登校・引きこもりの方の居場所づくりなど、幅広いニーズにも対応しています。

また、地域住民とのお祭りの共催や清掃活動への参加などを通じ、地域との交流や共生の輪も年々広がっています。



写真 1

保護者・支援者対象LD勉強会

■ 活動の経緯・体制

2003年に博多障がい者フレンドホームの運営を受託し、2014年までに4か所のフレンドホーム指定管理を受託しています。文化教室等の事業を通じ、当事者団体としての視点と強みを活かして「困ったときに身近に相談できる施設」として地域の中での役割を担ってきました。現在の体制は1施設あたり施設長1名、相談員1名を含む4名程度で、大きな行事には地域のボランティアの協力を得ながら活動しています。

■ 活動の工夫・成果

フレンドホームでは、多様な障がいのある方が安心して学びや活動に参加できるよう、細やかな配慮を行っています。参加前には必要な支援を確認し、一人ひとりが円滑に活動に馴染めるよう支援しています。毎年実施するアンケートの希望も取り入れ、年間を通して充実した学びと楽しみを提供しています。コロナ禍で一時減少した利用者数も回復し、現在では過去最高を記録し、利用者の期待の大きさを実感しています。



写真 2

バスハイク

(R7)

視覚障害者にも「読む」権利と楽しみを！

功労者

■ 団体名・氏名

点訳友の会「ムッツゴロ」

■ 基本データ

継続年数	34 年間
主な連携先	諫早市視覚障害者協会、長崎県視覚障害者情報センター
団体の規模等	30 名
対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚に障害のある方の自立と社会参加の手助けを図るための

- ◇図書、広報誌及び依頼文書等の点訳
- ◇視覚障害者との交流
- ◇点訳者の育成

■ 活動内容

点訳友の会「ムッツゴロ」は「点訳活動を通して、会員相互の研修と親睦を図るとともに視覚障害者の文字活動の手助けなどを目的」として、平成3年に発足しました。会の名称は、点字の6つ（むつつ）の点と諫早はムツゴロウで有名なことから名付けました。現在の主な活動は、点訳による市報やカレンダー、JR時刻表などの生活情報の提供、図書の点訳・サピエ図書館への提供、県や市主催の点字講習会への講師派遣や点訳ボランティア養成講座での点訳者の育成ですが、このほかに長崎県視覚障害者情報センターと連携して点訳スキルの向上に努め、諫早市視覚障害者協会が開催する交流会などで障害者との意見交換も行っています。また、24のボランティア団体で構成される諫早図書館利用者団体連絡協議会（図連協）のメンバーとして、毎月の定例会への参加、図書館運営に関する助言、毎年開催される「としょかんフェスティバル」においては、点字体験コーナーを設けるなど、点訳の普及や後継者育成への取組を行っています。



写真1

市報などの発送作業

■ 活動の経緯・体制

長崎県視覚障害者協会主催の点字講習会受講後の受け皿として、平成3年に会員7名で発足しました。新図書館建設の際には「諫早としょかんづくり市民ネットワーク」に、図書館開館後は図連協のボランティア団体として図書館活動にも参加しており、平成13年には諫早図書館内での点字プリンターを活用した活動を開始しました。現在は30名のメンバーで毎月第2・第4土曜日に定例会を開催しています。

■ 活動の工夫・成果

市報などの点訳により、視覚障害者が身近な生活情報に触れる機会を創出しています。また、図書館の「点字版利用者案内」の作成・配布、図連協への参加、図連協主催の「としょかんフェスティバル」での点字体験などの活動は、図書館活動や障害者の学習支援に貢献しているほか、点字を通して視覚障害への理解促進につながっています。また、点字講習会や点訳ボランティア養成講座、体験教室により、点訳者の育成、加入者の促進に努めています。



写真2 としょかんフェスティバルでの点字体験

動作法による障がいのある人への発達支援

功労者

■ 団体名・氏名

大分心理リハビリテーションの会

■ 基本データ

継続年数	30 年間
主な連携先	大分大学、親の会
団体の規模等	90 名
対象	身体障害 知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

発達支援技法である動作法を通して、肢体不自由や知的障がいのある方々の動作の改善と、自立支援のための活動を行っています。大分県脳性まひ児者父母の会と大分県ダウン症連絡協議会「ひまわり会」がそれぞれ主催する活動に携わり、心身両面の支援に加え、参加者同士の交流や保護者の交流、大学生や大学教員との交流を通して生涯にわたって学びを深めています。

■ 活動内容

肢体不自由や知的障がいのある人に対して、現職教員やボランティアの大学生が動作を通じた発達支援を行っています。支援の対象者は、支援者の援助のもと、動かしづらくなっている身体の緊張を弛め、適切な身体の動かし方を身につけていきます。また、動作を通じたやり取りの中でコミュニケーションの発達を促したり、心理的な安定を目指すなど、様々なニーズに対応しています。

活動の中に休憩時間や集団活動の時間を設けることで、当事者と支援者、保護者が交流する時間が生まれ、相互理解が深まっています。そのほかにも、集中研修会では親の会の子育て相談やきょうだい児支援も行うなど幅広い支援を行っています。ボランティアの大学生にとっても貴重な学びの機会となっています。障がいのある人の日常生活を支える取組みであるとともに、障がいのある人となない人がともに学び笑いあう場にもなっています。



写真2 集中研修会の集合写真（ダウン症）



写真1 毎月の活動風景（脳性まひ）

■ 活動の経緯・体制

1974年に特別支援学校教員と親の会が合同で「脳性まひ児者父母の会」を結成し、その後教員の会が独立して現在の「大分心理リハビリテーションの会」となり、脳性まひ、ダウン症それぞれの親の会を支援しています。当事者、保護者、現職教員、大学教員、大学生がそれぞれの立場から活動に参画することで、子どもから大人まで参加できる生涯学習の場を保障し発展させています。毎月の研修会と年に1回の集中研修会を行っています。

■ 活動の工夫・成果

障害児心理の専門性を有する大学教員が、ボランティアの大学生及び現職教員の指導に当たっています。また、集中研修会では支援者向けの研修も行っています。参加者が身体をリラックスさせたり、身体の動かし方を工夫して上手に立ったり座ったりできるようになるといった身体面の成果があるだけでなく、活動への参加自体に居心地の良さを感じるなど、余暇活動としても充実した成果が見られています。

障がい者の社会参加をめざした和太鼓教室「SOME WAY」

功労者

■ 団体名・氏名

日田市手をつなぐ育成会

■ 基本データ

継続年数	10 年間
主な連携先	日田市、和太鼓グループ『浦和太鼓』
団体の規模等	90 名

対象 障害児者及び共に太鼓教室に参加希望の者

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

当会の活動の一環として、障がい者等が自立した日常生活及び社会生活を営めるようになることを目的とし、和太鼓教室『SOME WAY』を立ち上げ、和太鼓グループ『浦和太鼓』から指導を仰ぎながら、和太鼓の練習及びイベント出演等を行っています。

■ 活動内容

日田市手をつなぐ育成会の和太鼓教室『SOME WAY』は、2015年から日田市地域生活支援事業を受託し、和太鼓を通じて障がい者等が自立した日常生活及び社会生活を営むことができることを目的として活動しています。対象は知的障がいの方を中心に、20代から50代の一般就労や就労継続支援B型事業所の利用者等、様々な立場の方が参加しています。毎週1回の練習では、基本的には、『浦和太鼓』のオリジナル曲である『はばたき』のみを何年にもわたり、様々なアレンジを加えながら演奏することで、音の表現力や太鼓の技術力を磨いています。いつかは、同じく『浦和太鼓』のオリジナル曲であり難曲でもある『つえどん』を演奏できるようになり、地域の方々に和太鼓奏者として認められることを目標としています。また、福祉まつりや特別支援学校の同窓会、人権に関するイベント等に招待され、演奏を披露する機会も年々増加しています。本会は障がい者自らが能動的に行動することを積極的に支援しており、『SOME WAY』の参加者の「和太鼓以外にも挑戦したい」の声を実現して演劇にも取り組み、2018年に開催された第18回全国障害者芸術・文化祭おおい大会等で、『島ひきおに』や『島ひきおにとケムン』を上演し、好評を博したところ。本活動は、今後も障がい者等の余暇活動及び生きがいとなる場所として、発展させていくことを目指しています。



写真1 2024市民健康福祉祭りにおけるオープニングアクト

■ 活動の経緯・体制

10年前、日田市手をつなぐ育成会のある会員の「私もステージに立ってスポットライトを浴びたい」との声から、和太鼓グループ『SOME WAY』は始まりました。最初は特別支援学校の体育館等を借用し、不定期で開催していましたが、行政及び地域住民と連携して定期開催とし、現在まで活動を続けています。練習は、毎週火曜日18時30分から1時間、旧障がい者支援施設にて、地元の和太鼓グループ『浦和太鼓』から指導者を招いて行っています。

■ 活動の工夫・成果

和太鼓の練習時間帯を平日の夜に設定することで、参加者の生活リズム作りを促しています。また、本活動を通して、目標が明確になったり、参加者同士のコミュニケーションが生まれたり、自らの将来の姿を考えたりするようになってきています。和太鼓や演劇によるイベント出演は、参加者の達成感や自己肯定感、挑戦心、一体感等を生む契機となっており、支援者や保護者を介さない参加者同士の交友関係も構築されていっています。イベント出演等による本活動の周知は、特別支援学校の生徒への卒業後の余暇活動の場として本会を認知して貰う一助にもなっています。



写真2 2024県立日田支援学校同窓会イベント出演

宮崎県（国富町）

バラエティに富んでいる平均年齢70歳の本好きで 元気な仲間たちが集まったグループ

功労者

■ 団体名・氏名

国富町音声訳グループ「フレンド」

■ URL

<https://www.bura-vola.org/members/detail/310>

■ 基本データ

継続年数	22 年間
主な連携先	国富町社会福祉協議会
団体の規模等	15 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ボランティア精神に基づき、視覚障がい者への情報提供・文化教養の向上を図る方法として、音声訳の技術を高めています。音声訳を主体とした社会奉仕並びに、視覚障がい者福祉への協力と併せて会員相互の親睦を図ることを目的として、2003年から「音声訳」を中心に活動をしています。

■ 活動内容

月1回の国富町広報誌の音声訳や講師を招いての勉強会をはじめ、月2回の読み聞かせ活動のほかに体験学習会もおこなっています。主に国富町立図書館や国富町内の小学校で活動しています。読み聞かせ活動においては、子どもさんの喜ぶ姿や笑い声、共感の声をたくさんいただき、元気をもらっています。活動を続けるなかで、人と人との繋がりを再認識でき、読み聞かせ活動を続けていて良かったと思う瞬間もたくさんあり、やりがいを感じています。また、ボランティア講演会への出演や意見交換会を開催するなどの活動を通して音声訳の必要性を感じてもらい、普及を図っています。以上のような活動をおこなうなかで、大切にしていることは、2点あります。1点目はボランティア（情報提供側）だけではなく、利用される方々からの声（考え方や意見）を傾聴することです。2点目は「人の音声には機械には変えられない温かみがあり、そのための表現技術を高めること」を常に意識して取り組むことです。



写真2

音声訳の様子



写真1 「声の広報」について取材を受けた際の様子

■ 活動の経緯・体制

社会福祉協議会主催の「朗読講座」に参加するなかで、視覚障がい当事者とその家族のために「私たちが何かをすることで少しでも助けになれば」という思いから、同じ朗読講座で学んだ仲間が中心となり、2003年10月に発足しました。現在は、会長：1名、副会長：1名、会計：1名、会員12名の計15名で活動しています。

■ 活動の工夫・成果

これまで国富町内の小学校や図書館での絵本の読み聞かせや、町の広報誌を音声訳した「声の広報」の作成活動等に取り組み、地域住民へ広く公開してきました。特に「声の広報」は、読み手の主観が入った感情表現にならないよう、できるだけ淡々と読み進めています。また、自然なイントネーションやアクセントに気を配るなど、細部にこだわって作成しており、視覚障がい者にとって身近な情報源として大切にご利用いただいています。

(R7)

ふうせんバレーボール普及活動

功労者

■ 団体名・氏名

鹿児島ふうせんバレーボール協会

■ URL

<http://kagofuvolley.stars.ne.jp>

■ 基本データ

継続年数	31 年間
主な連携先	日本ふうせんバレーボール協会
団体の規模等	91 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ふうせんバレーボールを通して、障害のある方と健常者が交流し、相互の健康維持・増進を図るとともに、障害のある方が閉じこもらないように、社会参加意欲を高める一助となることを目的として活動しています。また、当事者やその家族同士のつながりを築く場となるよう努めています。

市内の各所で活動しているチームによる定期活動の他、月に1回全チームが集う定期合同練習会、年1回の大会開催、審判員・ボランティアの講習会、福祉施設や特別支援学校への出張教室を実施しています。

■ 活動内容

鹿児島ふうせんバレーボール協会は、障害のある方と健常者がふうせんバレーボールを通して交流し、互いの健康の維持・増進と障害のある方の社会参画意欲の向上を目的として活動しています。

月に1度、毎月第4日曜日には、ゆうあい館（鹿児島市中心身障害者総合福祉センター）において定期合同練習会を行うとともに、6団体8チームがそれぞれの活動を継続して行っています。

また、交流大会としてゆうあい館主催の大会や九州各県からの出場者を募る九州地区交歓大会を開催したり、県外の大会に参加したりして交流の場を広げるようにしています。

また、ふうせんバレーボールの普及や支援者の確保のため、審判員やボランティアを対象に講習会や交流会を行ったり、特別支援学校や障害者福祉施設、放課後デイサービス等への出張講習会なども積極的に行っています。



写真1 ボランティア交流会

■ 活動の経緯・体制

平成3年に北九州市のふうせんバレーボール振興委員会より紹介されました。平成5年に鹿児島市の在宅障害者グループが長崎で行われた大会に参加したのを機に、平成6年に「鹿児島ふうせんバレーボールを楽しむ会」として発足。鹿児島市外の市町村にも赴き、ふうせんバレーボールの普及活動を行い、競技団体が増えていきました。平成25年に、「鹿児島ふうせんバレーボール協会」に改称。

■ 活動の工夫・成果

様々な種類や程度の障害のある方でも健常者と一緒に楽しむことができるようにルールを工夫しています。

長年チームに所属し経験を積んだ者が、新メンバーにルールを教えたり声をかけたりするなど、中心となって活動する人材の育成や参加者相互の交流が深まっています。

障害当事者家族の方々の交流や相互の情報交換の場になっています。



写真2 9月開催された長崎大会で優勝

こどもの城合唱団「みつけよう、すてきなこと」

功労者

■ 団体名・氏名

こどもの城合唱団

■ URL

<https://kodomonoshiro-uta.com/>

■ 基本データ

継続年数	40 年間
主な連携先	自治体や教育委員会、児童館、省庁の外郭団体など
団体の規模等	260 名
対象	知的障害、発達障害、精神障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

1985年、国立児童総合センター「こどもの城」のオープンに先駆けて結成し、「こどもの城」閉館後も、3歳から82歳までの世代や性別、国籍や障害の有無を超えた多様なメンバーが音楽を通したインクルーシブ活動を続けています。全国の子どもたちとの交流、病院や老人ホームなどへの慰問、多くの施設でのワークショップなど、色々な体験を重ねながら活動しています。

■ 活動内容

①就学前の幼児と保護者のリトミッククラス、
②小学校1～4年生、小学校高学年～中学生、高校生以上とクラスを分けての合唱講座、
③障害のある子ども達のための音楽クラス（ミュージックパーク）など、
各クラス週1回の通常練習のほか、障害のある子どもたちと健常児、保護者が一緒にバレエやダンス、歌、ピアノ、朗読などを体験するクラスも年間を通して開催しています。毎年開催される夏の合宿では、合唱クラスの子ども達によるキャンプや自然体験のほか、造形活動や楽器演奏、就労体験（接客、会計、調理）など、ミュージックパークの子ども達のための多彩なプログラムも実施し、地域の障害児・者のグループなどとの交流も毎年継続して行っています。合唱団の定期コンサートやクリスマスコンサート、全国各地の公演及び地域との交流活動も活発に展開しており、行政などからの依頼公演も多数実施しています。



写真1 2025年3月の40周年記念公演にて

■ 活動の経緯・体制

代表理事兼合唱団の指揮者を務める吉村 温子（高谷 温子）さんを中心に専門の講師達が「みつけよう、すてきなこと」をテーマに、自分らしさを伸ばしていけるよう、丁寧な指導を行っています。また、団員の家族、OB・OG、合唱団の活動を通じて関わりを持った人達で構成する「こどもの城サポーターズクラブ」が交流イベント、コンサート等の企画・運営、手伝い等を行うほか、広報活動や寄付活動にも関わり合唱団を支援しています。

■ 活動の工夫・成果

「歌うこと、踊ること、自分の身体を使って表現することはあらゆる人に与えられた権利である」という理念のもと、障害がある子ども達の為の音楽クラス、障害児と保護者、健常児が共にバレエやダンス、歌、ピアノ、朗読などを体験するクラス等を実施しています。夏の演奏旅行と合宿は北海道から沖縄まで全国にわたり、地域との繋がりを深めています。東京パラリンピック閉会式や東京デフリンピックプレイイベントへの出演も果たしました。



写真2 2024年10月 地域交流イベントにて

全国

手話演劇の普及振興

功労者

■ 団体名・氏名

岐阜ろう劇団いぶき

■ URL

<https://www.facebook.com/Gifu.deaf.ibuki>

■ 基本データ

継続年数	43 年間
主な連携先	文化芸術団体、小・中・高等学校等
団体の規模等	10 名

対象

聴覚障害者を中心としたすべての人

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

その他

活動の概要

43年間に渡る全国各地での舞台芸術文化の振興や、手話演劇等の表現活動による聴覚障害者の社会参加の機会の創出、さらに、小学校や大学等を対象とした、青少年への手話講座を通じた手話演劇を楽しむ文化の醸成を図っています。

■ 活動内容

自主公演等による手話演劇公演の開催をはじめ、県内外からの要請を受けて舞台・各種メディアへの出演を精力的に展開するなど、43年間に渡り、手話演劇を通じて舞台芸術文化の振興並びに聴覚障害者の社会参加に尽力しています。小学校、中学校、高等学校、大学での手話講座も精力的に開催し、聴覚障害者のみならず、健聴者に対しても手話演劇の魅力を広めるとともに、手話を通じたコミュニケーション能力及び自己表現力の育成に当たっています。

また、学校や公民館などで「聞こえないこと」についての講演やミニ公演、ワークショップ等を開催するなど、障害者や人権についての理解を深める活動を展開しています。さらに、劇団創立当初から取り組む手話による狂言の公演により、手話と日本の伝統文化を伝え続けています。



写真1 『不思議な再会』長良高校の演劇部と共演

■ 活動の経緯・体制

1982年、ろう者の社会参加実現を目指した9名（内、健聴者2名）によって結成。現在、メンバーは20代から70代までの幅広い世代で構成されています。

岐阜市にある劇団の稽古場や地域の公民館等で稽古を重ね、依頼を受けて全国各地で公演しています。

■ 活動の工夫・成果

手話演劇の普及事業の中で、学生を対象とした活動にも積極的に取り組んでいます。令和4年度からは岐阜県立長良高等学校演劇部と合同で継続的に公演を開催しており、令和6年度にはその集大成として、「『清流の国ぎふ』文化祭2024 いろんなみんなのステージイベント『不思議な再会』」で共演しました。終演後は手話演劇に初めて取り組んだ高校生と感想を交流し、様々な思いを共有しました。



写真2 美濃市立中有知小学校にてワークショップ

(R7)

全国

障がいのある人・ない人が共に演劇をつくる「じゅう劇場」

功労者

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人 鳥の劇場

■ URL

https://www.city.himeji.lg.jp/himeji_brand/0000031838.html

■ 基本データ

継続年数	19 年間
主な連携先	文部科学省、鳥取県文化振興財団、青山学院大学
団体の規模等	14 名（サポーター会員204名）
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 就労支援

活動の概要

鳥取県の廃校になった小学校を劇場にリノベーションして活動する民間劇場・鳥の劇場によるプロジェクトです。障がいのある人とない人がいっしょになって演劇創作を行い、障がいのある人の演劇の才能や多様な個性を引き出し、舞台上に多様な人が助けあって生きる「共生社会」の実現を目指し、出張公演、ワークショップなども行い、差別のない共生社会を目指して活動しています。

■ 活動内容

長編作品の創作と上演

シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』・『マクベス』、ワイルダー『わが町』など有名戯曲を題材に、参加者の特徴や個性を活かしながら、じゅう劇場オリジナルのユニークな上演に発展させ、毎年参加者全員で創作しています。

短編作品の創作と県内巡回

30分程度の短編作品を県内学校や公民館などで巡回上演し、上演の後に障がいのある俳優と観客がいっしょに参加するワークショップを行い、相互理解の輪を広げています。

活動の広報

30分間のラジオ番組「じゅうなラジオ」（月1回更新、毎週1回放送）やホームページで、参加者が稽古の様子や活動の紹介等の周知を図り、一般社会の障がいへの理解や共感を広げています。



写真1 長編作品『じゅう劇場版 間違いの喜劇』上演

■ 活動の経緯・体制

2013年に活動を開始しました。障がいのある人・ない人を毎年公募により集めています。2014年「第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会」で初上演し、以降、鳥取県内外で毎年公演を行ない、フランス、タイでも上演しました。アメリカの障がいのある人の劇団や、韓国の国立芸術大学・韓国芸術総合学校との共同事業も実施しています。鳥の劇場が運営し、参加者のご家族や公募による「応援団」が活動を支援しています。

■ 活動の工夫・成果

障がいのある人だけでなく、障がいのない人も募集し、鳥の劇場のプロ俳優も加わることで、みなそれぞれ個性を発揮し助け合いながら芝居を作り、同時に作品の質を高いものとしています。また、創作参加者とあわせて応援団も公募し、活動を支援していただきながら、その輪を広げています。

大阪・関西万博でも短編作の上演を行い、観客の好評を得ました。



写真2 大阪・関西万博での公演風景

(R7)

視覚障害者等に対する読書バリアフリーの推進

功労者

■ 団体名・氏名

中野 泰志

■ URL

<https://web.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/>

■ 基本データ

継続年数	37年間
主な連携先	慶應義塾大学
団体の規模等	—

対象	視覚障害、身体障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

読書バリアフリーを先導し、①バリアフリー書籍の制作、②ボランティア養成、③読書支援技術の普及、④UDフォントの普及、⑤大学図書館との共同制作、⑥法制度の推進のための委員就任、⑦読書の困難さの疑似体験や読書バリアフリーシンポジウム開催による理解・啓発等の多面的取組を展開してきました。

■ 活動内容

読書は、あらゆる世代の学習の基盤となるものであり、その環境の整備を進めることは、障害者の生涯学習活動への支援です。また、読書バリアフリーの推進は、社会における障害理解の促進や、共生社会の実現に向けた取組の観点からも重要です。そのために、①PDF版拡大図書等のバリアフリー書籍（アクセシブルな書籍）の制作、②拡大写本制作者を増やすためのボランティア養成への協力、③読書を支援する技術の普及、④読みやすさを考慮して制作されたUDフォントの普及、⑤視覚障害者等の読書環境改善に向けて、大学図書館等を巻き込んだバリアフリー書籍の共同制作等の直接的な支援を行ってきました。また、普及・啓発活動として、⑥「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に係る関係者協議会」の座長を始め、地方自治体の読書バリアフリー推進計画策定委員会の委員等の担当、⑦読書バリアフリーを共感的に理解・普及させる体験セミナーやシンポジウム等の開催等を行ってきました。



写真1 アクセシブルな図書の制作方法研修会の様子

■ 活動の経緯・体制

活動当初は単独での取り組みでしたが、質の高いバリアフリー書籍の安定供給を実現するために、ボランティア、学校、企業、大学図書館等と連携するようになりました。また、活動を全国に広げるためには法制度が必要なことから、国や地方自治体等にも協力するようになりました。さらに、読書バリアフリーを推進するためには、理解が必要であるため、セミナー等の普及・啓発活動を展開してきました。

■ 活動の工夫・成果

全国各地の学校や障害当事者団体等を訪問し、様々な障害児者のニーズを聞くための対話を繰り返し、当事者の自己決定等が、自らの読書環境の改善に反映されることが実感できる工夫を行ってきました。また、質の高い書籍が安定供給できるようにするために、ボランティアだけでなく、国、自治体、学校、企業、大学図書館等を巻き込む工夫を行ってきました。さらに、将来の発展を考慮し、法制度にも積極的に協力してきました。



写真2 バリアフリー書籍の制作

全国

「学び」で君が花開く「みんなの大学校」によるオンライン学習の提供と各地への普及啓発

功労者

■ 団体名・氏名

引地 達也

■ URL

<https://minnano-daigaku.net/>

■ 基本データ

継続年数	14 年間
主な連携先	各自治体、特別支援学校、福祉サービス等
団体の規模等	30名程度（年間、スタッフ、講師等）
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

コロナ禍で障害者がつながれない状態を受け、一般社団法人「みんなの大学校」を設立しました。「誰でもどこでも」学べる仕組みとしてオンラインでの学びを提供しています。専門の講師によるカリキュラムを毎日行い、年間210講座を開講、延べ1,500人（2024年度）が受講しています。また、全国の福祉サービスや重症心身障害者、海外への啓発活動も展開しています。

■ 活動内容

みんなの大学校では、前期・後期各15回の講義を行う大学方式でカリキュラムを展開しています。

単位制を採用し、一定の単位を修得して修了することで学びを体系的に積み重ねるプロセスを重視しています。これまでに、引きこもりの方や重症心身障害者も修了しています。講義は、自宅で保護者やヘルパーとともに受講する形式や、福祉サービス事業所が施設単位で集合して受講するなど、受講形態はさまざまです。基本はオンラインですが、必要に応じて対面も取り入れています。

講義内容は、心理学や経済などの高等教育分野のほか音楽・体操など交流を重視したものもあり、あらゆる障害に対応できるよう構成しています。中でも、引地氏の専門領域である「メディア論」の授業では、全国の福祉サービス事業所と連携し、新潟・山梨・名古屋・埼玉・東京の5か所を結んだ共同授業を展開しています。音楽の授業では毎回プロの演奏家を講師に招きオンラインで合奏を楽しむなど幅広い学びを提供しています。



写真2 重症心身障害者のキャンパス体験



写真1 オンライン講座の様子

■ 活動の経緯・体制

東日本大震災の際に気仙沼市で行った障害者・保護者への支援活動を契機に、コミュニケーションの改善等を目的とした支援・学びの開発を開始。福祉事業所向け教材の開発やみんなの大学校の開設を行い2020年からはオンラインでの学びを提供しています。講師は高等教育の専門家が担当し、受講者は福祉サービス通所者や自宅で参加するの重症心身障害者などさまざまです。大学や地域の連携を通じて公開講座などの企画も実施しています。

■ 活動の工夫・成果

年間2期制・1講義15回の大学方式を基本に、個々のニーズや障害特性、福祉事業所の体制を考慮し、講義時間を50分に設定しています。

講師は双方向の対話を重視した授業を行い、受講者の評価は講義への参加を重視するなど、オンラインで同じ時間を共有する「同時刻性」を大切にしています。

これらの「誰でもどこでも」の実践は、各地での学びの展開・普及にもつながっています。

(R7)

ドリームチャレンジdayへGo!

奨励活動

■ 団体名・氏名

秋田ふくしハートネット

■ URL

<https://www.akitaaisen.com/>

■ 基本データ

継続年数	3 年間
主な連携先	学校、行政、団体等
団体の規模等	140名
対象	知的障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害福祉サービス事業所による作業販売を通して、交流と学びの機会を提供するとともに、木工ワークショップ等を通して、職業スキルの向上や定着を支援しています。また、地域の方々が障害のある方と関わり、障害者への理解を深めることを目的とした学びの場として、芸能文化発表会等のイベント開催、駅舎清掃、花苗設置等の地域美化活動を実施しています。

■ 活動内容

ドリームチャレンジdayへGo!では、障害福祉サービス事業所としての機能を活用し、地域の多様な人材を巻き込むことで、住民に必要とされる地域に根ざした交流活動イベント「せんぼくハートフルフェスタ」に取り組み、共に学び、生きる価値を広めています。

開催当初は、参加者が300名でしたが、現在では400名を越え、障害のある方もない方も互いに学び合い、交流する姿が見られる地域になくはならないイベントに成長しています。職業スキルの発揮場面としては、行政や団体と連携し、仙北市内外のイベントで販売活動や展示、清掃活動等を行い、地域住民とのコミュニケーションから学びを得るとともに、貢献活動につなげています。また、近隣の小学校のPTA活動や公民館、特別支援学校の青年学級と連携し、定期的にNEWスポーツ、調理、工作等の活動で、学びと交流を深めています。



写真2 講座修了後の集合写真

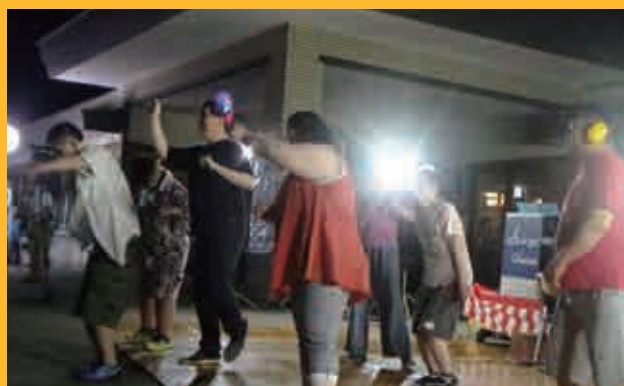


写真1 地域の方のバンド演奏に合わせて音楽交流

■ 活動の経緯・体制

法人では、福祉分野の専門性やノウハウ等を生かしながら、積極的に地域貢献活動を実施してきました。

令和4年度、秋田県障害者の生涯学習支援モデル事業の受託をきっかけに、教育分野からの協力が得られ、新しい関係者のネットワークを形成することができました。このことが、これまでの取組に生涯学習の視点を加えた「ドリームチャレンジdayへGo!」の開始につながり、受託を終えた現在も継続しています。

■ 活動の工夫・成果

地域住民の要望を受けて開催している「せんぼくハートフルフェスタ」では、障害のある方の興味・関心や職業スキルに基づいた歌やダンスの発表、木工ワークショップ等を行っています。この活動が、障害のあるなしに関わらず、互いの学びと交流する機会になっています。活動の様子は、SNSを活用して画像や動画を配信し、様々な人が障害のある方の学びの場に触れ、新たなつながりづくりに結びつけられるよう努めています。

日本ゴールボール協会発足30年！

地道な普及活動が「2024パリパラリンピック競技大会」で男子が悲願の金メダル獲得！！

奨励活動

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本ゴールボール協会

■ URL

<https://jgba.or.jp/>

■ 基本データ

継続年数	30 年間
主な連携先	特別支援学校、小学校等
団体の規模等	120 名
対象	視覚障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

日本ゴールボール協会は1994年5月に発足し、競技普及と選手強化を軸に、審判員やオフィシャルスタッフの養成、育成に努めてきました。日本代表チーム(オリオンJAPAN)はアテネ2024パラリンピックに日本女子が初出場で銅メダルを獲得し、パリ2024パラリンピックまで6大会連続出場を果たしています。男子は東京2020パラリンピックに初出場し、パリ大会で金メダルを獲得しました。

■ 活動内容

競技普及では、全国の盲(視覚支援)学校で出前型の体験授業を展開しており、加えて、一般校で学ぶ見えない・見えにくい児童生徒に対するゴールボール体験授業を実施しています。

さらに、毎年全国8カ所で初心者向け「チャレンジゴールボール大会」を実施し、誰もがゴールボールを体験する場を創出しています。

各地のチーム強化では、全国のクラブチームのトップを決める「日本選手権大会」(男女予選大会含む)を年3回実施・運営し、競技人口の増加に努めてもいます。

日本代表チームの強化では、年間約100日～200日間の強化合宿をNTCイーストにて男女合同で実施しており、日本の強みの1つである「チーム力」を養っています。

また、社会人選手は全員がアスリート雇用にて企業に所属しており、ゴールボールを通して社会貢献にも努めています。



写真1 チャレンジ大会(ディフェンス練習)

■ 活動の経緯・体制

組織体制としては、普及啓発部や広報部、マーケティング部等の部署を設け、各部署が連携することで、協会としての取り組みや成果を広く発信する仕組みづくりを設けています。また日本代表チームでは、選手を最大限にサポートするために、コーチ、トレーナー、映像分析、競技サポートスタッフ等、各分野の専門家の力を集結して“アスリートセンタード”の体現に努めています。

■ 活動の工夫・成果

視覚障害のある参加者には、協会からの情報が写真や図などの画像データのための発信にならないようキャプションを付与し、パソコンやスマートフォンからのアクセスでは、スクリーンリーダーやiPhoneのボイスオーバー機能を使い内容把握ができるようにしています。また公式SNSやメールマガジンを細かく配信し、拡散力を利用した情報伝達に取り組んでいます。



写真2 代表合宿練習の様子

“義足で走りたい”という思いを叶える「陸上教室」


 奨励活動

■ 団体名・氏名

新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科
障がい者陸上教室

■ URL

<https://www.nuhw.ac.jp/faculty/at/>

■ 基本データ

継続年数	8年間
主な連携先	新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科
団体の規模等	10 名
対象	身体障害
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

本活動は、下肢切断者の方の「義足で走りたい」という思いを実現するための生涯学習支援を行っています。義肢装具士を中心とした専門スタッフが、スポーツ義足の調整と義足で走るための身体の使い方を段階的にレクチャーしています。参加者の方は継続的に参加することで義足による走り方を覚え、競技大会への出場や他のパラスポーツにも挑戦しています。

■ 活動内容

本教室は、下肢切断者の方の「義足で走りたい」という思いを実現するため、2017年に活動をスタートしました。教室は月に1回の目安で開催しており、専門のスタッフ（義肢装具士など）が中心となり、参加者一人ひとりの体に合わせて義足を調整し、継続的に教室へご参加いただくことで立つ・歩く・走るといった動きを段階的に練習できるようサポートしています。また、自宅でも続けられるストレッチやトレーニング方法も紹介し、学んだことを日常生活に活かしていただけるよう工夫しています。活動の中では、陸上競技だけでなく、さまざまなパラスポーツの体験会や、参加者同士の交流を目的としたレクリエーションも行っています。これにより、参加者は体の動かし方を学ぶだけでなく、自信や意欲を高め、社会とのつながりを広げることができています。また年1回、義足のパラアスリートをお招きし全国規模のランニングクリニックを開催しており、参加者の中には新潟県障害者陸上大会に出場した方もいます。



写真 2

練習後の集合写真



写真 1

走り方レクチャーの様子

■ 活動の経緯・体制

スポーツ用の義足は、現在の福祉制度では公的な補助の対象外であり、購入や使用には費用や技術の面で大きなハードルがあります。そこで本学の資源を活用することで下肢切断者の方に気軽にスポーツを楽しんでほしいという想いから活動を開始しました。現在は、本学科で義肢装具士の資格を持つ教員と学生スタッフが月に1回を目安に開催しています。またNPO法人や新潟県障害者スポーツ協会と連携しています。

■ 活動の工夫・成果

教室では、走るための練習に加えて、参加者みんなで楽しめるレクリエーションも多く取り入れています。これらのレクリエーションは、学生スタッフが中心となって企画・運営をしています。そのため、教室の雰囲気はとても穏やかで、参加者同士が自然に交流できる場となっています。スポーツを楽しむことを通じて、義足や自分の体のこと、日常生活の工夫など、さまざまな情報を共有できる機会にもなっています。

障害者も、健常者も、個性を目いっぱい発揮する “当たり前”のバリアフリー


 奨励活動

■ 団体名・氏名

シズオカノーボーダーズ

■ URL

<https://loudhill.jp/>

■ 基本データ

継続年数	7 年間
主な連携先	公益財団法人静岡市文化振興財団
団体の規模等	35 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

- (1)障害者を中心にした舞台パフォーマンス発表を年2回程度行っています。
- (2)障害者と健常者が協力し、定期的に稽古を行っています。
- (3)全てオリジナル脚本で、自分たちで新しい文化を創造・発信しています。

■ 活動内容

シズオカノーボーダーズは、障害者を中心に健常者との混合チーム35名が定期的に舞台パフォーマンスの稽古を行っています。障害の程度や体調によって参加状況は日々変化しますが、障害者と健常者がお互いに支えあい、高めあいながら活動を重ねています。これまで上演した作品は全てオリジナルの脚本・振付で、静岡愛に満ちた内容になっています。どこかの誰かが作った作品を演じるのではなく、自分たちで新しい文化を創造し、発信しています。

2019年1月の初舞台以降、静岡市民文化会館主催「ラウドヒル計画」で年2回程度の舞台発表公演を実施した他、静岡市のシンポジウムや各種イベント等に出演しており、2022年度「第13回地域再生大賞」に静岡県代表として優秀賞を受賞しました。2025年度からは市内小・中学校や特別支援学校に向けたアウトリーチ事業等でもパフォーマンス及びワークショップを行い、子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出にも寄与しています。



写真 2

舞台公演の様子



写真 1

稽古風景

■ 活動の経緯・体制

静岡市民文化会館が主催する市民参加型舞台事業「ラウドヒル計画」の参加者の中から、健常者と障害者の混合ユニットとして結成された障害者ダンスチームです。現在は、静岡市民文化会館が施設改修のため休館となっていますが、同館の指定管理者であった公益財団法人静岡市文化振興財団が主体となり、生涯学習センターやマリナートなどを拠点（稽古場）にして活動を継続しています。

■ 活動の工夫・成果

「文化活動のバリアフリー」を掲げ、参加者同士が障害の有無を問わずに別け隔てなく接しながら稽古をしています。障害者も健常者も「当たり前」に相手を思いやること」の大切さを大事にしたチームづくりをしています。舞台を楽しみながら、人との関わり方に関心を持ち、より良い社会の実現に向けた意識をもって活動していることから、「誰もが文化活動を楽しめる」ことを実感することができます。

製菓指導で障害者の自信・やりがい向上

奨励活動

■ 団体名・氏名

パティスリー ル・クール
眞砂 大輔

■ URL

https://www.city.himeji.lg.jp/himeji_brand/0000031838.html

■ 基本データ

継続年数	9 年間
主な連携先	社会福祉法人等
団体の規模等	8名

対象

すべて

活動分野

学習

文化芸術

スポーツ

情報保障

普及啓発

就労支援

活動の概要

障害者と就労支援員にボランティアで製菓の指導・監修を行っています。指導はパッケージデザイン、商品の保存・管理、価格決定等にも及び、製菓の知識・技能が障害者に定着するよう注力しています。また、障害者への間接的な指導となるよう、就労支援施設にも教本を寄贈。障害者の能力や自信・やりがいの向上と就労につながる質の高い支援活動を行っています。

■ 活動内容

材料の品質の割に安価で販売されがちな、就労支援施設が製作する菓子の価値向上と、適正価格での販売による障害者の自信・やりがい向上を目指し、2016年5月より障害者と就労支援員にボランティアで製菓を指導しています。

また、技術的な指導だけにとどまらず、使用する機材、パッケージ、成分表示等のトータルアドバイスを行い、商品化した焼菓子を市役所や郵便局、イベント等にて販売しています。

就労支援施設によると、指導内容をノートにまとめ、調理に入る前に何度も見返したり、「焼き菓子づくりの手順を覚える」という短期目標を立てたりする利用者もあり、モチベーションが高まるとともに、自信を持って製菓に取り組むなど、利用者の「作る喜び」につながり、日常生活でも何事にも前向きに取り組もうとする姿勢が見られるようになったと聞いており、効果を感じています。



写真2 パッケージやポップを工夫して



写真1

指導の様子

■ 活動の経緯・体制

就労支援施設にて、製菓知識が無い支援員が障害者に指導を行う現状と就労支援施設が専門家に教われず困っていることを知ったため、就労支援施設での菓子販売の品質向上のために専門家のサポートが必要と感じました。障害者が製作する菓子の価値を高めるとともに、障害者が自信ややりがいを感じられる菓子作りを目指し、管轄の行政と連携して就労支援員と障害者の製菓指導をボランティアで行っています。

■ 活動の工夫・成果

施設毎に事前面談を行い、指導方法等を検討しています。また、簡単な工程で製作可能なレシピの考案により、障がい者の菓子製作就労の機会を増やし、失敗が少なくお菓子を製作できるように工夫しています。支援員にお菓子の基本知識、安全管理、機材に関するトータルアドバイスを指導し、適正価格にて「売れるお菓子」となるまで導いています。

障害者は向上心を持って製菓に取り組んでいます。

みしゃモンカレッジ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～

奨励活動

■ 団体名・氏名

社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会

■ URL

<https://misakicho-shakyo.jp/>

■ 基本データ

継続年数	8年間
主な連携先	社会福祉法人 美咲町社会福祉協議会
団体の規模等	93名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある人が主になり、「学べる場」「体験できる場」「役割が持てる場」「交流する場」を目的とした活動を地域で実施しています。障害のある人と地域の皆さんが共に活動することで、「地域共生社会」の実現に取り組んでいます。

■ 活動内容

障害のある人たちが中心となって、「学べる場」「体験できる場」「役割が持てる場」「交流する場」を目的とした活動を地域で実施しています。“お達者さん”と呼んでいる地域の方々が主に講師を担っています。カレッジ生の希望をプログラムとし、これまで、そば打ち、ホールスタッフ、ダンス、太鼓、大工等の体験を実施しています。年間3回カレッジを開催し、プログラムを受講すると修了証書を授与しています。カレッジ生には毎年度すべての課程を修了するという目標を持ってもらい、新しいことにも挑戦してもらいます。社会参加が難しい方や多様な世代の方が参加されていますが、カレッジは、地域住民がサポーターとして協力・参加し、地域に開かれた学びの場となっており、地域住民の協力・参加を重視することで障害への理解を深め、参加者の地域での暮らしにつながるようにしています。



写真2 ホールスタッフ体験の様子



写真1 大工の匠の様子

■ 活動の経緯・体制

美咲町社会福祉協議会職員が、障害者本人の会「レインボータートル」の活動に参加し、自身の大学生活のことを話したところ、「大学ってどんなところ？」等の質問がありました。多くの方は支援学校卒業後、作業所へ通うか施設を利用して生活をされています。大学で学んでみたいという想いや、地域参加の暮らしの実現を目指して皆さんとカレッジを作ることにし、本人、家族、地域住民、関係団体等に働きかけ運営体制を構築しました。

■ 活動の工夫・成果

「楽しかった」で終わるのではなくカレッジでの学びを日常生活の中で活かしたり、「自分の力」を引き出し、本人自身のストレングスを確認することができるようプログラム内容を工夫しています。こうした積み重ねの結果、参加者自身が日頃の生活の中で「挑戦したいこと」「夢」等を見つけ、「仕事をしてみたい」等の前向きな気持ちを持てるようになり、作業所などに勤めたり、意欲的に社会参加を試みる参加者も出てきています。

音楽療法の視点を活かした、 障害者の潜在能力が輝く音楽活動


 奨励活動

■ 団体名・氏名

徳島文理大学音楽学部音楽学科
音楽療法コース

■ 基本データ

継続年数	5 年間
主な連携先	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター
団体の規模等	15 名
対象	すべて
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「とくしま共生アートプロジェクト推進事業」のひとつとして、大学に設置された音楽療法コースが徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター(以下、芸文センター)と協働し、音楽療法の視点を活かした音楽活動を経験する機会を提供します。また、地域社会に開かれたステージでの音楽発表の支援や音楽活動実践者を支援するワークショップも行っています。

■ 活動内容

大学を飛び出して芸文センターと協働し、地域で音楽療法の視点を活かした3つの音楽活動を展開しています。1. 「集まれ! みんなで音楽を楽しもう!!」では、セラピストのリードのもとジャンベを打ち鳴らしたり、歌を歌ったり、色とりどりのスカーフを振ったりと、これまで80名を超える参加者が生の音楽活動を体験。2. 障害者の舞台芸術「みんなのはっぴようかい」の私たちのスタイルは、その人の強みを活かした音楽を共に創り上げること。スウィングするような音楽には、奏者間、ときには会場を巻き込んだやりとりもあり、学びの成果とともに彼らの自尊心の高まりが伝わってきます。3. さらなる大学の使命として、芸術文化活動を支援する人材の育成「療法的音楽活動を経験するー職場で音楽活動を実践するためにー」を開催。支援者自身が体験しながら理論を学ぶワークショップは「理解がしやすい」、「実際の支援に繋がる」という声が多く寄せられています。



写真1 あなたのリズムを聴かせて!(活動1 2024年)

■ 活動の経緯・体制

2020年に芸文センターから、職場で障害者の音楽活動に携わる人を支援できないかという依頼があり、教員がワークショップを開催したことが始まり。2023年からは芸文センターに大学が共催する体制となり、約15名の教員と学生がコースを挙げて本学名誉博士である米国認定音楽療法士夫妻とも協力して取組を進めています。芸文センターが県内から広く参加者を募り、3つの活動への延べ参加人数は100名を超えました。

■ 活動の工夫・成果

芸文センターが行ったアンケートに「音楽療法のアイデアを借りることで重度の障害者も活動が可能になる」、「今行っている音楽活動に音楽療法でよく使う楽器を取り入れたい」という意見があるように、生涯学習としての新しい音楽の形を提案しています。音楽療法コース教員と学生が織りなす音楽活動を経験して、障害当事者が自分たちの日頃の音楽活動について見直す動きもあります。



写真2 トーンチャイムを使った活動を学ぶ(活動3 2022年)

全国

聴覚障害者の卓球の普及啓発をめざして！

奨励活動

■ 団体名・氏名

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

■ URL

<http://www.jdtta.com>

■ 基本データ

継続年数	30 年間
主な連携先	日本卓球協会、日本パラスポーツ協会等
団体の規模等	会員約160 名

対象

聴覚障害、健常者

活動分野

学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

聴覚障害者の卓球の発展を目的とし、普及啓発、強化育成、国際親善、会員相互の親睦を図る活動を行っています。主な事業活動として、全国ろうあ者卓球選手権や全国ろうあ者卓球リーグ戦大会の主催・運営、卓球教室の講師派遣、選手の強化・育成、国際大会への選手派遣などが挙げられます。

■ 活動内容

全国ろうあ者卓球選手権大会や全国ろうあ者卓球リーグ戦などを開催しています。全国ろうあ者卓球リーグ戦では、個人戦と団体戦を年に数回開催し、聴覚障害者だけではなく健聴者も参加でき、男女年齢に関係なく、予選リーグと順位トーナメントなど多くの試合ができる工夫がされています。健常者は耳栓をして、聞こえ難い状態での試合を行い、デフ卓球を体験しながら試合を行います。大会を通じてろうあ者と健常者が一緒に卓球を楽しむことで、相互理解を深め、社会的なつながりを築く場となっています。また、大会の成績優秀な選手は、強化合宿や日本代表候補選手選考会などに参加し、デフリンピックなどの国際大会を目指すきっかけにもなっています。

その他、卓球教室の講師派遣などを通じて、聴覚障害者の卓球の普及とデフ卓球の理解啓発にも力を入れています。



写真2

デフ卓球体験講座の様子



写真1

全国ろうあ者団体リーグ戦の集合写真

■ 活動の経緯・体制

日本ろうあ者卓球協会は、平成7年9月10日全国ろうあ者体育大会の後、全国の卓球仲間が集まる中で、日本の聴覚障害者卓球競技を代表する唯一の競技団体としてスタートしました。その後、平成15年3月に公益財団法人日本卓球協会へ加盟、平成18年4月に日本パラリンピック委員会へ加盟し、平成24年4月に一般社団法人へ移行しました。現在は、理事8名、強化部11名、一般会員132名、学生会員25名で活動しています。

■ 活動の工夫・成果

東京デフリンピック2025に向けて、デフ卓球体験教室の実施や高校・大学との合同練習会などを通して、普及啓発につながってきています。これからも、日本卓球協会や日本パラリンピック委員会との連携を深めながら活動していきたいと思っています。

また、公式ウェブサイトやSNSなどで、最新情報の発信や大会の様子や結果の掲載を行うことで、活動の普及と会員相互の親睦も深まっています。

(R7)

文部科学省 Web サイトでは、
障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

<https://kyouseisyakainomanabi.mext.go.jp/>



共生社会のマナビ

検索

